

### 和仏法律学校講義録

掛下, 重次郎 / 富井, 政章 / 兩角, 彦六 / 梅, 謙次郎 / 前田, 孝階 / 小宮, 三保松

---

(出版者 / Publisher)

和仏法律學校

(巻 / Volume)

1-1

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

45

(発行年 / Year)

1899-02-05

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3

# 二年

(再版)

每頁四回

民法原理(至一頁) 法律博士梅謙次郎

民事訴訟法總則(自二〇頁) 法律博士前田孝階

法(至一六頁) 法律博士小宮三保松

法(至八頁) 法律博士榎下重次郎

釋(自二〇頁) 法律博士兩角善六

法(自一頁) 法律博士富井政章

明治三十二年(自第一号) 第一部(至第二十四号)

完

册数二十四册

新編

(再版)

每冊四

年

新編法律學

講義

第一卷



壹號

民法原理 (至四頁) 法學博士梅謙次郎

民事訴訟法總則 (至二〇頁) 法學士前田孝附

物權法 (至一六頁) 法學士小宮三保松

親族法 (至八頁) 法學士掛下重次郎

民法債權 (至二〇頁) 法學士兩角彦六

契約法 (至四頁) 法學博士富井政章

# 民法原理

法學博士 梅謙次郎 講述  
校 友 小田幹治郎 編輯

## 緒論

民法ハ私法ノ一部ニ屬シ私法ハ又法律中ノ一分類ナリ故ニ民法ノ何タルヲ知ラント欲セハ先ツ法律ノ何タルヲ知ラサルヘカラス  
法律ノ定義ニ關シテハ古來幾多ノ學說アリ然レトモ近時一般ニ行ハル、所ノモノハ概テ下ノ二說ニ歸着スルカ如シ其一ハ古來多數ノ學者カ採用セシ所ニシテ法律ハ唯社會自然ノ發達ニ伴フモノニアラスシテ寧ロ一種ノ理想ニ依テ支配セラレ、モノナリト爲スモノ之ヲ名ケテ自然法派ト謂フ池ノ一ハ近來勢

カアル説ニシテ法律ハ決シテ理想ニ基キタルモノニアラス唯歴史上ノ產物ニシテ社會自然ノ發達ニ伴ヒテ生シタルモノナリト言フモノ之ヲ名ケテ歷史派又ハ史學派ト稱ス前説ハ佛法系ニ屬スル國ニ於テ多ク採用セラレ後説ハ獨法系ニ屬スル國ニ於テ多ク採用セラレ

右二箇ノ學說ハ各充分ノ根據ヲ有シ輕シク其取捨ヲ決スルコトヲ許サスト雖モ予ハ寧ロ自然法派ノ説ヲ以テ至當ナリト信スルカ故ニ今此學說ニ基キテ法律ノ定義ヲ下セハ

法律トハ人類カ社會ヲ組織スルニツキ必ス從ハサルヘカラサル規則ヲ謂乙凡ソ人類ハ社會的生活ヲ爲スヘキ自然ノ特性ヲ有ス縱令往古蒙昧ノ世ト雖モ人々孤立ノ生活ヲ爲スカ如キハ殆ト之アラサルナリ其偶マ山中ニ獨棲セシ者アルモ寧ロ非常ノ異例トス今人類カ此特性ヲ有スルコトヲ證センニハ近ク之ヲ男女相愛シ起居相共ニスルノ事實ニ見ルコトヲ得ヘシ一男一女相契ルモノ之ヲ夫婦ト謂フ夫婦ハ既ニ二人ノ社會ナリ而シテ夫婦アルノ結果子アリ孫アリ親子兄弟相集リテ更ニ大ナル社會ヲ成ス今日尨然タル一大社會モ其原ハ子

孫ノ繁榮ニ外ナラス加之未開ノ世ニ於テハ猛獸毒蛇ノ類到ル所ニ横行シ我人類ノ生存ヲ妨害スルコト尨カラス之ヲ驅除センニハ勢ヒ多數ノ團結ヲ要ス是ニ於テカ多數ノ人衆相集リテ遂ニ村落ヲ成セリ此ノ如ク人類ハ其内部ノ必要ト外部ノ必要トニ因リテ社會ヲ組成スルニ至リシカ其社會ノ漸次發達スルニ伴ヒ衣食住ノ慾望モ亦隨テ増進シ此ニ事物ノ過不足ヲ感シ或ハ有無相通シ或ハ需要供給相補ヒ交通往來日ニ開ケテ社會ノ區域ハ年ト共ニ擴張セラレタリ然レトモ社會ハ常ニ秩序的ノ進歩ヲ爲シ膨張ヲ爲スモノニアラサルヲ以テ或ハ進ミ或ハ退キ盛衰殆ト定マリナクシテ與亡時ニ免レス唯其大勢ノ上ヨリ觀察ヲ下セハ此ノ如キ幾多ノ變遷ヲ經テ漸次開明ノ域ニ進マントスルノ傾向アルノミ而シテ予ノ私ニ信スル所ニ依レハ此社會ノ前途ハ其極遂ニ主權ノ上ニ主權ヲ認メ萬國合一ノ最大社會ヲ現出スルニ至ルヤ蓋シ疑ナキカ如シ

前述ノ如ク人類相集リテ社會ヲ組織スルニ當リテハ此ニ人々相互ノ間ニ於テ其利益嗜慾ノ衝突アルコトヲ免レス甲ノ利トスル所ハ乙ノタメニ不利タリ丙

ノ欲スル所ハ丁ニ於テ害アルカ如シ親子兄弟ノ利害相反スルコト世間既ニ其例ニ乏シカラス殊ニ他人ノ聞ニ於テフヤ而シテ利害ノ衝突ハ勢ヒ争鬪ヲ醸シ之ヲ制止スルノ途ナクシテハ社會ハ遂ニ修羅ノ區ト成リ人類互ニ相賊ヒテ社會ノ滅亡ヲ見ルニアラスンハ決シテ止マサルヘシ是ニ於テカ人類一般ニ遵奉スヘキ法律ナルモノアリ之ヲ以テ其争鬪ヲ處決スルコトヲ得ヘシ予カ法律ノ定義ヲ下シテ人類カ社會ヲ組織スルニツキ必ス從ハサルヘカラサル規則ナリト言ヘルハ實ニ此ノ如キ理由アルヲ以テナリ

然レトモ人類ノ極メテ幼稚ナリシ原始時代ニ於テハ猶ホ今日ノ如ク明確ナル法律アルコトナシ唯實際ノ關係ニ於テ或規則ヲ遵奉スルノ必要アリシノミ例ヘハ甲獵者一頭ノ鹿ヲ捕獲シタリトセンニ乙隣人濫ニ之ヲ奪去ルトキハ甲者ハ之ニ對シテ其返還ヲ要求スルノ權利アリシカ如ク若クハ甲者二頭ノ鹿ヲ捕獲シ其一頭ヲ乙者ニ貸與セシニ乙者約ニ背キテ遂ニ之ヲ返還セサルトキハ甲者ハ之ニ對シテ其返還又ハ他ノ物ノ代價ヲ要求スルコトヲ得タルカ如シ而モ今日吾人カ尊重スル債權債務ナルモノハ實ニ此單純ナル現象ニ其源ヲ酌ミシ

モノナリ然リ而シテ此ノ如キノ權利ハ必スシモ主權者ヲ埃チテ後ニ認メラレタルモノニアラスシテ社會生存ノ必要上自然ニ發達シタルモノナリ蓋シ當時ノ法律ナルモノハ宛モ今時ニ於ケル國際法ヲ見ルカ如キモノカ今日未タ列國ヲ主宰スルノ主權者ナク國際法違反ノ所爲ハ獨リ兵力ニ依テ之ヲ争フコトヲ得ルト等シク原始時代ノ有様モ單タ腕力ヲ以テ其權利ヲ保護シタルニ過キス而シテ今日國際關係ニ於ケル第三者ノ仲裁ノ如キモ此時代ニ於テ盛行ハレタルニ似タリ要スルニ原始時代ニ於テハ未タ整頓シタル法律ナカリシト雖モ其社會的生存ノ必要上宛モ今日ノ國際法ニ類スル極メテ幼稚ナル法律ノ存在セシコトハ毫モ疑ナシ

法律ハ此ノ如ク社會ノ生存ニ缺クヘカラサルモノナリ然レトモ社會カ完全ナル生存ヲ遂ケントスルニハ未タ法律ノミヲ以テ足レリトセス是レ道德ナルモノ、縁テ起リシ所以ナリ然ラハ法律ト道德トハ如何ナル點ニ於テ區別アルカ蓋シ道德ナルモノハ其範圍極メテ廣キモノニシテ一言ニシテ之ヲ言ヘハ善ニ格ルノ道ナリ而シテ所謂善ナルモノハ之ヲ定ムルノ標準必スシモ確定セスト

雖モ少クトモ吾人ノ社會ニ善ナルモノ、存在スルコトハ疑ナシ此善ニ格ルノ道ヲ攻究スルモノ之ヲ名ケテ道德學ト謂フ道德ハ此ノ如ク善ニ格ルノ道ナリ故ニ其區域極メテ廣ク當ニ吾人ノ行爲ノミナラス其精神ヲモ支配ス而モ其精神行爲ノ規則ハ吾人單獨ノ上ニモ尙存セリ之ニ反シ法律ナルモノハ吾人ノ行爲ノミニ關シ而モ其範圍ハ吾人カ社會ト關係ヲ有スルモノ、ミニ限レリ故ニ其區域ハ道德ニ比シテ太ク狹シトス假リニ之ヲ名ケテ正不正ト言フコトヲ得ヘシ例ヘハ彼ノ慈善ノ如キハ固ヨリ道德ノ要求スル所ナリト雖モ未タ社會ノ生存ト直接ノ關係ヲ有セサルヲ以テ法律ハ必スシモ之ヲ要求セサルカ如ク要スルニ道德ノ區域ハ善惡ニシテ正不正ハ則チ法律ノ區域ナリトス

法律ハ學ナリキ將タ術ナリヤ是レ學者間ニ議論アル所ナリ然レトモ法律ハ學ニモ屬シ亦術ニモ屬ス蓋シ學トハ真理ノ研究ヲ謂ヒ術トハ真理ヲ實地ニ應用スルノ方法ヲ謂フ故ニ法律ノ沿革又ハ各種ノ法律其他法律ノ原理ヲ研究スルハ則チ學ニシテ法律ノ解釋適用其他法律ノ改廢ハ則チ術ニ屬ス瑞西ノ領學ロガエン氏ハ諸種ノ學問カ必ス經過スヘキ階級ヲ示シテ之ヲ五段ニ分テリ第一ハ

想(Fonction creative) 又ハ Imagination (deregnee) ニシテ論理ノ作用ナク唯漫然腦中ニ浮出ツルモノヲ指シ第二ハ識(Fonction historique) ニシテ事物ヲ考察スルモノ即チ多少論理ノ作用ニ依ルモノヲ指シ第三ハ則チ學(Fonction de la science pure) ニシテ前提ニ基キ必然ノ結果ヲ論定スルモノ是ナリ第四ハ術(Fonction de l'art) ニシテ一定ノ目的ニ達スルノ方法ヲ研究スルヲ謂ヒ此ニ到リテ以上三箇ノモノヲ實際ニ應用シ其効果ヲ見ルヲ得ヘシ第五ハ評(Fonction critique) ニシテ或事項ノ理想ニ適合スルヤ否ヤヲ判斷スルモノ是ナリ此五段ノ階級ハ法律ニ於テモ之ヲ見ルコトヲ得ヘシ例ヘハ我舊民法ハ賃借權ヲ以テ一ノ物權ト爲セリ物權ハ直接ニ物ノ上ニ行ハル、ノ權利ナリ然ルニ賃借權ハ賃貸人ニ對シ物ノ使用ヲ要求スルコトヲ得ルノ權利ナリト言フカ如ク唯漫然浮出ツルモノハ想ニシテ次ニ舊民法ハ物權及ヒ賃借權ニツキ如何ナル規定ヲ爲シ、カ羅馬法ヲ始メ歐米諸國ノ法律ハ如何ナル規定ヲ採レルカ此ノ如キコトヲ考察スルハ即チ識ナリ更ニ進ミテ物權ハ直接ニ物ノ上ニ行ハル、ノ權利ニシテ敢テ他人ノ介入ヲ要セス而モ賃借權ハ賃貸人ニ對シテ物ノ使用ヲ要求スルノ權利ヲ含メリ是ヲ

以テ見レハ賃借權ハ物權ニアラスシテ寧ロ債權ナリト言フカ如ク推理ヲ以テ  
スルモノ是レ學ナリ此ノ如ク賃借權ハ性質上債權ナレトモ之ヲ以テ第三者ニ  
對抗スルコトヲ得モシムルニアラサレハ其効用完カラス之ヲ對抗セシムルノ  
方法如何或ハ登記法ヲ用ユヘキカト言フカ如ク或目的ヲ達スルノ方法ヲ研究  
スルハ即チ術ナリ尙舊民法ハ物權ヲ以テ直接ニ物ノ上ニ行ハル、ノ權利ナリ  
トスルニモ拘ラス賃借人ニ或義務ヲ負ハシムル賃借權ヲ以テ物權トシタルハ  
論理ヲ貫カサルモノナリト言フカ如キハ即チ所謂評ナルモノナリ  
廣義ニ於ケル法律ハ上來説明セシ所ノ如シ然レトモ狹義ニ於ケル法律ハ寧ロ  
命令ニ對スルノ語ニシテ憲法ニ所謂法律ナルモノ是ナリ今之カ定義ヲ下セハ  
天皇ノ命令ニシテ帝國議會ノ協賛ヲ經タルモノヲ謂フ  
此狹義ノ法律ヲ除キ臣民ニ對シテ執行ノ効力アルモノハ悉ク命令ナリ而シテ  
憲法發布以前ニ於ケル陸軍ノ命令ハ性質上帝國議會ノ協賛ヲ經ヘキモノニ限  
リ其名ノ何タルヲ選ハス悉ク之ヲ法律中ニ加フヘキモノナリ例ヘハ租稅ニ關  
スル規則ノ如キ其一ナリ

以上法律ノ何タルヲ略說セシヲ以テ次ニ法律ノ類別ヲ概說セン法律ハ凡ソ左  
ノ如ク類別スルコトヲ得ヘシ

- 第一 性。法。制。定。法。
- 第二 國。法。國。際。法。
- 第三 公。法。私。法。
- 第四 原。則。法。又。ハ。實。體。法。手。續。法。又。ハ。形。式。法。

是ナリ  
第一 性。法。制。定。法。  
性。法。トハ、天。理。人。性。ニ。基。キ、自。然。ニ。定。マ。リ、タ。ル。法。律。ヲ。謂。ヒ。制。定。法。トハ、主。權。者。カ。社  
會。ノ。生。存。ニ。必。要。ト。シ、テ。直。接。又。ハ。間。接。ニ。定。メ、タ。ル。法。律。ヲ。謂。フ。  
性。法。ハ、天。理。人。性。ニ。基。キ、テ。定。マ。リ、タ。ル。モノ。ナ。ル。カ。故。ニ。人。々。不。識。ノ。間。ニ。於。テ。其。支  
配。ヲ。受。ケ。遠。ク。原。始。時。代。ヨリ。既。ニ。行。ハ。レ。タ。ル。モノ。ナ。リ。然。レ。ト。モ。制。定。法。ノ。如。ク。明  
確。ニ。定。マ。リ、タ。ル。モノ。ナ。キ。ヲ。以。テ。裁。判。官。カ。之。ヲ。適。用。ス。ル。ニ。當。リ、テ。モ。必。ス。シ。モ。一  
途。ニ。出。ツ。ル。コ。ト。ヲ。保。シ、離。シ。彼。ノ。明。治。八。年。ノ。布。告。裁。判。事。務。心。得。ニ。明。文。ナ。キ。場。合



ニハ慣習ニ依リ慣習ナキ場合ニハ條理ニ依ルト言ヘル所謂條理ナルモノハ實ニ此性法ヲ意味シ其如何ナルモノカ條理即チ性法ナルカハ一ニ之ヲ裁判官ノ認定ニ委スルノ外ナシトス故ニ社會ノ進歩スルニ伴ヒ性法ノ部分漸ク減少シテ制定法之ニ代ルノ傾アリ然リ而シテ性法ノ原則ト制定法ノ規定ト相抵觸スルトキハ尊ロ性法ヲ捨テ、制定法ニ從ハサルヘカラス何トナレハ制定法ハ主權者カ性法ニ符合スルモノトシテ制定シタルモノナルニ反シ性法ハ各人ノ頭腦ヲ以テ自由ニ判定スルコトヲ得ルモノナレハナリ予故ニ曰ク性法ハ唯制定法ナキ場合ニ於テ其適用ヲ見ルヘキノミト

性法ヲ認メサル學者ハ法律ヲ以テ歷史上ノ產物ト爲シ各時代ノ必要ニ應ジテ發生スルモノナリト言ヘリ法律カ時代ノ必要ニ應ジテ發生スルコトハ固ヨリ言フヲ缺タス然レトモ其所謂必要ナルモノカ孰レノ國孰レノ時ヲ問ハスシテ常ニ同一様ニ認メラル、コトアリ例ヘハ人ヲ殺スヘカラス、他人ノ物ヲ竊ムヘカラス、人ト約シタルコトハ之ヲ守ラサルヘカラスト言フカ如シ是等ノ原則ハ必スシモ歷史上ノ產物ニアラスシテ寧ロ歴史以前ニ於テ既に存在シタルモノ

ナリト謂ハサルヘカラス換言セハ天理人性ニ基キテ發生シタルモノニ外ナラサルナリ是レ即チ性法ニアラスヤ

然リト雖モ法律ハ素ト社會ノ生存上必要ナル規則ナルコト既ニ論シタルカ如キヲ以テ社會ノ變遷ト共ニ多少ノ變更ヲ必要トスヘキハ亦數ノ免レサル所ナリ故ニ性法モ亦右ニ述ヘタルカ如キ大原則ヲ除ク外其適用ニ至リテハ必ス時勢ニ伴ハサルヘカラス故ニ性法ハ理想法ト謂フモ可ナリ

性法ノ存スルコト此ノ如シ而シテ歴史派ハ法律ヲ以テ歷史上ノ產物ナリトスルカ故ニ法律ノ發達ヲ以テ自然ノ變遷ニ放任スルノ傾アルノミナラス法律ヲ改良スルニ當リテモ其標準ヲ求ムルニ甚タ困難ナリ蓋シ過去ノ事實ハ歴史ニ徴シテ之ヲ知ルコトヲ得ヘキモ將來ノ事ニ至テハ一ニ想像ニ是レ依ルノ外ナキヲ以テ強テ性法ヲ認メストセハ殆ント據ル所ナクレハナリ之ニ反シ性法ニ本ヲ取ルトキハ一ノ理想ヲ以テ根據トスルカ於ニ自ラ確然タルモノアリ殊ニ歴史派ノ說ニ從ヘハ法律ノ不備ナル場合ヲ如何スヘキカ凡ソ制定法ナルモノハ不完全ナル人間ノ作成シタルモノナリ之ニ多少ノ不備アルハ固ヨリ免レズ

此ノ如キ場合ニ於テ若シ性法ナルモノヲ認メストセハ何ヲ以テ其不備ヲ補ハントスルカ或ハ一般ノ原則慣習ニ依ルヘシト言ハシ然ラハ原則慣習ナキトキハ如何恐ラク性法ヲ外ニシテ依ルモノナカルヘシ

以上ハ性法ヲ認ムヘキ理由ノ説明ニ關セリ以下更ニ制定法ヲ細別シ成文法不文法ノ區別ニ付テ説明セン

成文法トハ主權者カ自己又ハ其代理人ニ依リ明文ヲ發シテ下シタル命令ヲ謂ヒ不文法トハ國家ノ維持社會ノ生存ニ必要ナリトシテ多數人ノ間ニ漸次認定セラレタル法則ヲ謂フ而シテ是レ亦間接ニ主權者ノ定メタル法則ニ外ナラス何トナレハ其法則ヲ採用シテ不文法ナリト認定スル者ハ通常一國主權者ノ代表者タル裁判官ナレハナリ人或ハ此點ニ拘泥シテ不文法ノ成立ハ一ニ判決ニ因ルモノナリト言フ者アリ然レトモ是レ單タ一般ノ場合ニシテ時ニ或ハ行政官ノ認定ニ因リテ成立スルコトアリ例ヘハ行政處分ニ關スル慣例ノ如キ即チ是ナリ

不文法ハ其名稱ノ如ク成文ヲ以テ規定セザルモノナリ然レトモ之ヲ以テ常ニ

### 民事訴訟法總則

法律學士 前田孝階 講述  
 校友 上野政雄 編輯

### 緒言

予ハ本日ヨリ民事訴訟法ノ講義ヲ擔當スルコト、ナレリ抑、我カ民事訴訟法タルヤ實施以來日猶ホ淺シ隨テ實際ニ於テモ亦學理ニ於テモ未タ充分ノ研究ヲ爲シタル者少ナシ是ヲ以テ今日我カ民事訴訟法ニ關スル著書ノ如キモ亦其數甚タ僅少ナルノミナラス偶、其著書アルモ敢テ完全ト云フヘキモノナキカ如シ故ニ諸君ニ於テモ我カ民事訴訟法ノ考究ニ付テハ參考ノ材料ニ乏シク加之學說ノ區々ナルカ爲メ甚タ解釋ニ迷フノ懼レアルヲ免レサル可シ蓋シ

我カ民事訴訟法タルヤ其範圍ヲ獨逸民事訴訟法ニ採リタルモノナルコトハ何人モ知了スル所ナリ然レトモ法律ナルモノハ自カラ其國情風俗ノ如何ニ鑑ミ之ヲ制定シタルモノナルカ故ニ外國ノ法律ヲ採リテ直ニ之ヲ我國ニ適用スヘカラサルハ固ヨリ當然ノコトニシテ立法ノ精神ニ於テ決シテ之ヲ許シ得ヘキモノニアラサルナリ是ヲ以テ我カ民事訴訟法ノ如キモ亦必スシモ全ク獨逸民事訴訟法ト同一ナラス其原則ニ於テモ亦多少ノ差異ヲ生シタルハ誠ニ明カナリトス如此其原則ニ於テ差異ヲ生シタル以上ハ其結果ニ於テモ亦差異ヲ生スヘキハ當然ノコトナリトス然ルニ我カ訴訟法ニ於テハ其原則ヲ變更シタルニ拘ハラズ其結果ニ付テハ或ハ獨逸民事訴訟法ノ規定ト同一ナルモノアリ又獨逸民事訴訟法ニ於テモ今日學者間ニ於テ學說ノ一致セサルモノ多クナルニ拘ハラズ我カ民事訴訟法ニ於テハ敢テ其疑ヲ解クノ途ヲ講セシテ依然之カ疑ヲ存セシム以上ノ二點ハ今日我カ民事訴訟法ヲ考究スルニ當リ吾人ヲシテ深ク立法ノ主意ヲ疑ハシムルト同時ニ又我カ民事訴訟法ノ解釋ニ苦マシム故ニ今日我カ民事訴訟法ヲ講スルニ當リテハ其所定ノ手續ヲ知ルト同時ニ如何

ナル點ニ於テ如何ナル理由ニ依リ疑ヲ存スルヤヲ明カニシ諸君ト共ニ之カ考究ヲ爲サンコト予ノ切望スル所ナリトス

總論

第一 民事訴訟法ノ意義

訴訟法トハ如何ナルモノナルヤハ敢テ説明ヲ要セスシテ明カナルヘシ即チ訴訟法トハ訴訟ヲ爲スノ方法ヲ規定シタルモノナリ故ニ刑事訴訟法トハ刑法ヲ適用スルニ付テノ方法ヲ定メタルモノナリ民事訴訟法モ亦民法ヲ適用スルノ方法ヲ定メタルモノナリトス蓋シ民法ニ於テハ私權ノ原則及ヒ其適用等ヲ定メタルモノナルカ故ニ民事訴訟法ハ即チ其私權ノ原則等ヲ適用スルノ方法ヲ定メタルモノナリ例ヘハ甲ナル者カ一家ヲ所有セリ然ルニ乙者之ヲ掠奪シテリト假定セシカ此ノ場合ニ於テハ甲者ハ其家屋ヲ回復スルヲ得ルコト勿論ナリトス然レトモ如何ニシテ之ヲ回復スルコトヲ得ルヤ又如何ナル手續ニ依リテ之ヲ裁判所ニ訴ヘ如何ナル方法ヲ以テ乙者ニ追マルヲ得ルモノナルヤハ實

ニ民事訴訟法ノ規定ニ依ラサルヘカラサルナリ之ヲ要スルニ民法ハ實體權上ノ規定ヲ定メ訴訟法ハ其適用ノ方式ニシテ所謂形式法ナリ換言セバ民事訴訟法トハ即チ民事訴訟ヲ爲スノ規定ニ過キサルナリ民事訴訟トハ何ソヤ曰ク民事訴訟トハ毀損セラレ若クハ論争セラル、所ノ私權ヲ一定ノ公力ニ依リテ之ヲ明確ニシ若クハ必要ナル場合ニ於テハ強制ノ方法ニ依リテ之ヲ回復若クハ伸張スルコトヲ云フ如此私權ノ實行ヲ計ルニハ必スヤ一定ノ公力ニ依ルヘキモノナリト雖モ之カ實行ヲ計ルニ際シテハ敢テ公力ニ專任シテ毫モ關係者ノ容喙ヲ許サスト云フニ非ラスシテ却テ其私權ノ實行ニ付テハ關係者ノ行爲ヲ最モ必要ナリトレ公力ノ如キハ全ク其一小部分ヲ補助スルニ過キサルモノナリ然レトモ其公力ノ多少ニ拘ハラス關係者ハ常ニ公力ニ服従スルノ義務ヲ免カレサルナリ若シ夫レ公力ニ服従スルコトヲ欲セス權利者自カラ其私力ヲ以テ已ノ權利ヲ伸張セントスルカ如キハ所謂民事訴訟ヲ爲スモノニアラサルナリ例ヘバ公力ニ依ラスシテ強制ノ執行ヲ爲スカ如キハ所謂民事訴訟ヲ爲スモノニ非ラスシテ却

テ暴行ヲ爲ス者ナリト云ハサルヲ得ス蓋シ強制執行ナルモノハ學術ノ進歩シタル國ニ於テハ其必要ヲ見ルコト未開ノ國ニ於ケルヨリモ固ヨリ僅少ナリ如何トナレハ人若シ學理ヲ知ラハ公力ニ服従スルノ義務アルヲ忘ルヘカラサレハナリ然レトモ強制執行ヲ爲ス場合ノ少ナキ故ヲ以テ裁判ノ執行力ヲ蔑視スルヲ得サルヤ勿論ナリ故ニ若シ判決ヲシテ執行力ヲ有セサルモノトセンカ其判決ハ民事訴訟法上所謂判決ニ非ス換言スレバ民事訴訟ニ於テ公力ニヨリ判決ヲ受ケタル以上ハ其判決ハ常ニ執行力ヲ有スルモノナラサル可カラサルナリ民事訴訟法ハ公法ノ一部ヲ爲スモノナリ如何トナレハ民事訴訟法ハ私權ノ保護ヲ以テ其主眼トナシ毀損セラレタル私權ノ爲メ公力ノ使用ヲ規定シタルモノナレハナリ然レトモ該訴訟法タルヤ全ク他ノ公法ト同シカラス其性質上ヨリ推スモ一私人ノ行爲及ヒ意思ハ他ノ公法ニ於ケルヨリモ却テ至大ノ勢力ヲ有スルモノナリ就中關係者ニ於テ權利ノ拋棄ヲ爲シタルカ如キ場合ニ於テハ其拋棄ノ効力タルヤ他ノ公法ニ於ケルヨリハ著大ノ効力ヲ有スルモノナルコ

ト明カナリトス然レトモ其關係者ノ意思タルヤ假令著大ノ効力ヲ有スルモ裁  
 判所ヲシテ法律ノ規定ニ反シ訴訟ノ審理方法ヲ異ナラシメ若クハ判決ヲ左右  
 スルコトヲ得サルヤ勿論ナリトス蓋シ民事訴訟法タルヤ單ニ一個ノ訴訟ノ爲  
 ニ設ケタルモノニアラスシテ社會ノ爲メ即チ諸種ノ訴訟審理ノ方法トシテ設  
 ケラレタルモノナルカ故ニ訴訟ヲ斷スルニ當リテヤ裁判官タルモノハ其一般  
 ノ規定ニ從ヒ之カ判定ヲ爲スヘキモノニシテ關係者ノ意思ニ依リ其方法ヲ變  
 更スヘキモノニアラサルナリ故ニ口頭審理及ヒ公開審理ノ原則ニ從フヘキ訴  
 訟法ノ規定アルニ拘ハラズ關係者ニ於テ猥リテ合意ヲ以テ書面ニ依リ訴訟ノ  
 判定ヲ求メ若クハ公開ノ禁止ヲ爲サシムルカ如キハ到底之ヲ爲スヲ得サルモ  
 ノナリ

民事訴訟法ニ對レテハ多少批難ヲ試ムルモノナキニアラス其批難タルヤ固ヨ  
 リ正當ノモノニ非スト雖モ亦多少其理由ナキニアラサルナリ今ヤ其二三ヲ舉  
 クレハ左ノ如シ

一 民事訴訟法ノ精密ナル規定ハ却テ實體ノ權利ヲ害スルモノナリト

例ヘハ裁判所ニ訴訟ヲ提起スルニ當リテヤ必ス訴訟法ノ規定ニ從ヒ一定ノ方  
 式ニ依リテ之ヲ提起セサルヲ得ス又其訴訟進行中ニ於テモ訴訟法ノ規定ニ從  
 ヒ期間又ハ申請ノ時期ヲ遵守シ終始法規ノ制限ニ依ラサルヲ得ス若シ夫レ然  
 ラスシテ右等ノ規定ニ違背セン歟爲メニ權利ヲ伸張スルノ途ヲ失ヒ自ラ正當  
 ノ權利ヲ有シナカラ勝ヲ認廷ニ得ルコト能ハス却テ不正ノ權利ヲ主張スル者  
 フシテ唯其訴訟上ノ手續ヲ遵守シタルカ爲メ勢ヲ恣ニセシムルニ至ル然ラハ  
 則チ勝訴者タルモノハ必スシモ正當ノ權利ヲ有スルモノニアラスシテ却テ巧  
 ニ訴訟法ノ規定ヲ遵守シタルモノナリ由是觀之訴訟法ノ規定ハ寧ロ正當ノ權  
 利者ヲ保護スルモノニアラスシテ巧ニ訴訟法ヲ運用スル者ヲ保護スルニ至ル  
 モノナリト

此ノ批難タルヤ全ク謂レナキモノニアラスシテ實際上ニ於テハ或ハ右批難ノ  
 實ヲ見ルコトナキニ非サルナリ然レトモ民事訴訟法ノ主意タルヤ決シテ如此  
 モノニアラスシテ訴訟審理上確定セラレタル權利ハ固ヨリ實體ノ權利ト同一  
 ナラサル可カラサルナリ若シ夫レ訴訟審理上不正ノ權利者ヲシテ勝ヲ認廷ニ

專ニセシムルカ如キハ決シテ正當ノ手續ニ依リタルモノト云フヲ得サルナリ然レトモ訴訟法ナルモノハ保爭權利ノ性質ニ從ヒ當事者ヲシテ自己ノ權利ヲ保護スルニ充分ナル方法ニ從フコトヲ得セシムルヲ以テ足レリトスヘキモノニシテ其當事者ノ意思ニ反シ若クハ其意思ナキニ拘ハラズ裁判官ヲシテ自ら進ムルニ其權利ノ確認ヲ負擔セシムルカ如キハ却テ裁判官ヲシテ訴訟ヲ爲サシムルモノニシテ全ク民事訴訟法ノ主意ニ背反スルモノナリ是ヲ以テ或ハ當事者ノ不行爲ニ依リテ懈怠ノ結果ヲ來タシ或ハ訴訟行爲ノ敏活ナル作用ニ依リテ裁判官ノ心證ヲ博シ裁判上排斥若クハ確認セラレタル權利ヲシテ實體ノ權利ト相伴ハサルニ至ラシムルハ實ニ止ムヲ得サルニ出ルモノナリトス如此裁判上ノ權利ヲシテ實體ノ權利ト相副ハサルニ至ルコト屢々ナルトキハ遂ニ訴訟ノ勝敗ヲシテ偶然ノ結果ト訴訟法學ノ巧拙ニ歸セシムルニ至ルモノニシテ吾人ノ感覺ヲ害スルコト敢テ尠少ニアラサルナリ然レトモ各當事者ニ於テ己ノ權利ヲ保護スル爲メ法律上充分ノ行爲ヲ爲シ又己ノ權利ヲ伸張スルニ充分ノ處分ヲ爲シ得ルニ拘ハラズ裁判官ヲシテ尙ホ當事者ニ代リ訴訟上攻撃防禦ノ

方法ヲ講セシムルハ立法上其當ヲ得タルモノニアラサルナリ加之訴訟法ニ於テ精密ナル規定ヲ設ケタルノ目的タルヤ或ハ訴訟事件ヲシテ他ノ事件ト混同セシムルノ虞ヲ防キ或ハ判定ヲ爲スニ當リ裁判官ヲシテ誤謬ノ誹ヲ受ケサラシムルコトヲ企望シ或ハ當事者ヲシテ訴訟ニ關シ充分ニ防禦ノ策ヲ講スルノ期間ヲ得セシメ或ハ裁判官ヲシテ判決ヲ然スニ致々トシテ却テ審理ヲ輕忽ニスルノ弊ナカラシメンコトノ希望ニ出タルモノナルヲ以テ其規定ノ嚴密ナルモ亦タ止ムヲ得サルニ出タルモノナリ

二 訴訟法ノ爲メ費用ヲ要スルコト夥多ナリト

凡ソ訴訟ヲ爲スニ當リテハ民事訴訟用印紙法ニ依リ先ツ訴訟物ノ價額ニ應ジテ訴狀ニ相當印紙ノ貼用ヲ要シ又辯論ノ延期期日ノ變更ヲ申請シ若クハ答辯書ノ提出ヲ爲スニ付キテハ金二十錢ノ印紙ヲ貼用セザルヘカラス其他證據調ノ申請判決正本送達ノ申請等ニ付テハ金五十錢ノ印紙ヲ貼用スヘキモノナルコトハ載セテ該印紙法ニ在リ其他當事者ノ日常旅費等ノ費用ヲ要シ一訴訟ヲ爲スニ付テハ自カラ夥多ノ費用ヲ要スルモノナリ然レトモ一國ニ於テ裁判所

ヲ設ケテ訴訟ヲ判定セシムルニ付テハ之カ爲メニ要スル費用モ亦隨テ莫大ナルモノナリ而シテ裁判所ニ關スル費用ハ一般人民ノ負擔ヲ免カレザル所ナリ何トナレハ裁判所ヲ設ケテ訴訟ヲ判定スルハ單ニ起訴者ノ利益ナルノミナラス其裁判所ノ設置アルカ爲メ却テ訴訟ヲ爲スニ至ラザルノ利益ヲ有スルモノナレハナリ然ラハ即チ假令訴訟ヲ爲サ、ルモノニ於テモ裁判所ノ利益ヲ受クテ以テ其利益ヲ受ケントスルモノハ特ニ其費用ヲ負擔スヘキハ勿論ノコトナリ故ニ訴訟當事者ニ於テ多少ノ費用ヲ負擔スルモ爲メニ不平ヲ唱フルコトヲ得ザルモノナリ況ンヤ訴訟費用ノ負擔ハ敗訴者ニ歸スルモノナルニ於テヤ加之訴訟上費用ヲ要スルハ訴訟法ノ規定ニ依ルニアラスシテ舉ロ行政上ノ規定即チ財政上ニ關スル規定ニ出ルモノナルヲ以テ訴訟費用ノ多額ナルノ所以ヲ以テ訴訟法ヲ批難スルノ材料ト爲スハ其當ヲ得タルモノニアラザルナリ其他訴訟法ノ規定ハ訴訟ヲ遅延スルノ虞アリ若クハ訴訟法ノ規定ハ立法者ノ億斷ニ出タルモノニシテ道理ニ適合セザルモノナリ期間ヲ指ス等ノ批難アリ

ト雖モ是等ハ全ク辯明ヲ要スルノ價值ナキモノニシテ茲ニ説明スルノ要ナキモノナリ

### 第二 民事訴訟法ノ効力

民事訴訟法ノ効力ニ付テハ之ヲ二ニ分ツテ得即チ土地上ノ効力及ヒ時期上ノ効力はナリ  
土地上ノ効力トハ場所ニ關スル民事訴訟法ノ効力ノ範圍ヲ云フ而シテ其効力ノ範圍ニ付テハ敢テ説明ヲ要セズシテ明カナリ即チ民事訴訟法ハ日本全國ニ於テ其効力ヲ有スルモノニシテ外國人ト雖モ治外法權ノ下ニ在ラサルモノ若クハ國際上ノ契約ニ依リ別段ノ定メヲ爲サ、リシ以上ハ我訴訟法ノ規定ニ從ヒ判定ヲ受クヘキモノニシテ自國ノ訴訟法ニ依リテ訴訟ノ審判ヲ受クルノ權利ヲ有セサルモノナリ故ニ其權利自體ニ付テハ或ハ外國ノ法律ニ從ヒ之カ斷定ヲ爲サ、ルヘカラザル場合ニ於テモ其手續ハ常ニ我カ訴訟法ノ規定ニ依ラザルヘカラザルコト勿論ナリ  
時期上ノ効力トハ適用ノ時期ニ關スル訴訟法ノ効力ノ範圍ヲ云フ凡ソ法律上

ノ規定ニ付テハ各自既得權ヲ有ス故ニ法律ト雖モ漫リニ其既得權ヲ害スルヲ得サルモノトス然レトモ訴訟法ナルモノハ私權ノ利益ノ爲メ公力ノ作用ヲ規定シタルモノニシテ實ニ私權ノ保護上必要ト認メタルモノニ過キサルナリ而シテ訴訟法ノ改正ヲ爲スハ立法者ニ於テ新訴訟法ヲ以テ舊訴訟法ヨリ完備ニタルモノナリトノ觀念ニ出テタルモノナレハ一個人ニ於テ其利益ノ方法ニ依リ自己ノ權利ノ保護ヲ受クルコトヲ拒ムノ理由ナキモノナリ故ニ訴訟法ナルモノハ實施ノ日ヨリ直チニ之ヲ適用スヘキモノナルノミナラス已ニ舊法ニ依リ提起セラレタル所ノ訴訟ト雖モ之カ審理ヲ爲スニ付テハ當然新訴訟法ニ依リテ可カラサルナリ然レトモ新訴訟法ノ適用ヲ爲スニ當リ果シテ當事者ノ實體ノ權利ヲ害スルコトナキヤ否ヤハ新訴訟法ノ主意及ヒ其原則ノ如何ニ依リ之カ斷定ヲ爲スノ外ナキモノナルヲ以テ新訴訟法ノ實施ニ當リテヤ豫メ特別ノ規定ニ依リ其効力ノ如何ヲ定ムルノ必要アルモノナリ是ヲ以テ我カ訴訟法ノ實施ニ際シテモ亦タ特ニ施行條例ヲ定メ以テ其新訴訟法ノ効力ヲ定メアリ

該條例ニ依レハ主トシテ新訴訟法ヲ適用セシメ訴訟法實施以前ニ提起セラレタル訴訟ト雖モ新訴訟法ニ依リ之ヲ完結セシム又新法ノ實施以前ニ於テ言渡サレタル裁判ト雖モ之カ強制執行ハ新ナル訴訟法ノ規定ニ依ラシムルコトトナセリ又上訴ニ關シテハ新法ニ依リ實施ノ日ヨリ起算シ訴訟法ニ定メタル期間内ニ於テ上訴ヲ爲スコトヲ得セシメタリ然レトモ其上訴期間ニ付テハ例外ノ規定ヲ設クアリ即チ新法ノ上訴期間カ舊法ノ上訴期間ヲ超過スル場合ニ於テハ舊法ノ上訴期間ヲ遵守セシメ又舊法ニ依リテ已ニ裁判ノ執行ヲ爲シ身代限ノ揭示ヲ爲シ若クハ公賣ニ着手シタル場合ニハ舊法ニ依リ其手續ヲ完結セシム右二個ノ場合ノ外總テ新訴訟法ノ規定ヲ遵守セシムルコト、ナセリ

第二 民事訴訟法ニ於ケル原則

第一原則 放任主義  
凡ソ權利者ハ自由ニ其權利ヲ處分スルコトヲ得ルヤ勿論ノ事ナルカ故ニ之ヲ讓渡シ之ヲ消滅セシムルモ皆其權内ニ屬スルモノナリ然ラハ則チ權利者ハ其



權利ヲ行使セ若クハ其權利ヲ防禦スルニ際シテモ亦固ヨリ自由ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ルモノニシテ其權利ノ伸長若クハ防禦ノ方法ニ付テモ亦一ニ權利者ノ意思ニ依ラサル可カラス假リニ全然其意思ノ如ク爲サシムルコトヲ得ストスルモ少ナクモ權利者ノ發意ニ依ラサルヘカラサルナリ如此權利ノ伸長若クハ防禦ノ方法ニ付テハ一ニ當事者ノ意思ニ依ラシムルトキハ或ハ懈怠ノ結果或ハ法則ヲ知ラサルカ爲メ終ニ己ノ不利益ヲ來スコトナシト云フヘカラサルナリ然レトモ其結果タルヤ當事者ノ意思ニ依ラス裁判官ヲシテ自カラ斷斷ノ方法ヲ取ラシムルノ弊害ニ比スレハ敢テ憂フルニ足ラサルモノナリ蓋シ裁判官ヲシテ自ラ斷斷ノ材料ヲ集メシムルトキハ或ハ當事者ノ利益ヲ害シ或ハ誤謬ノ見解ヨリシテ當事者ノ損害ヲ與フルニ至ルノミナラス其極ヤ當事者ノ爲メ不公平ノ處置ヲナスノ處ナキヲ保セサルナリ况ンヤ放任ノ原則ニ從ラモ裁判長ハ當事者ヲシテ不明瞭ナル申立ヲ説明シ事實ニ關スル不充分ナル證明ヲ補充セシメ若クハ證據方法ヲ申出テ其他事件ノ關係ヲ定ムルニ必要ナル陳述ヲ爲サシムルノ權利ヲ有スルニ於テヲヤ

如此當事者ノ意思ニ放任シ裁判官ニ於テ敢テ之ニ干渉スルコトヲ得ストハ如何ナル程度ニ於テスヘキヤハ茲ニ之ヲ明ニセサルヲ得ス蓋シ訴訟進行上裁判官ニ於テ職權上爲スヘキノ行爲少ナシトセス抑モ訴訟進行ノ適法ナル以上ハ裁判官モ亦訴訟法ノ規定ニ從ヒ職權上ノ行爲ヲ爲サハヘカラス例ヘハ我訴訟法ニ依レハ訴狀ヲ裁判所ニ提出シタルトキハ裁判長ハ先ツ其訴狀ノ適法ナルヤ否ヤ又其訴訟ハ訴訟條件ヲ具備スルモノナルヤ否ヤヲ調査シ其他起訴者ノ請求ナキニ拘ハラズ訴狀ヲ相手方ニ送達セサルヘカラス又相手方ヨリ棄却ノ申立ヲ爲サハ場合ニ於テモ相手方ノ申立ヲ棄却セサル可カラサル場合アリ抗告ノ場合ノ如キ是ナリ又當事者ニ於テ不明ノ申立ヲ爲スカ又ハ立證ノ責任ヲ辨セサルカ如キ場合ニ於テハ之ニ注意ヲ與ヘ其實實ヲ明ニシ又ハ其責任ヲ完カラシメサルヘカラス又當事者ノ申立アルト否トニ拘ハラズ當事者ニ於テ訴訟能力ヲ有スルヤ否ヤハ職權上之ヲ調査シ爲シ得ヘキ限リハ之カ補充ヲ爲サシメサルヘカラス是等ハ總テ裁判官ニ於テ職權上爲スヘキ所ノ行爲ニシテ敢テ當事者ノ行爲ニ放任スルモノニアラス然ラハ則チ放任トハ如何ナル

事柄ヲ云フヤ曰ク之カ説明ヲ爲スニハ左ノ原則ヲ摘示スルヲ以テ充分ナルヘ  
 (イ) 當事者ノ申立ヲ待テ爲シ得ヘキ事項ニ付テハ職權上之ニ關涉スルコトヲ  
 許サス

例ヘハ立證ノ責ハ當事者ノ負フ所ナルヲ以テ證據方法ノ申出ハ當事者ノ申立  
 フ要シ裁判官ニ於テ職權上證據ノ提出ヲ命スルコトヲ得ス(婚姻及ヒ養子縁組  
 事件ニ付テハ此限ニ非ス然レトモ一タヒ證據提出ノ申立ヲ爲シ其局證據調ヲ  
 爲スニ當リテハ單ニ當事者ノ請求ニ係ル取調ヲノミ爲スヘキニ非スシテ其立  
 證ノ方法ヲ定テ判決ノ爲メ有益ナラシムルハ實ニ裁判官ノ務ムヘキ所ナリト  
 ス例ヘハ人證ノ申出ヲ爲シ裁判所ニ於テ之ヲ許可シタル上證人ヲ訊問スルニ  
 ハ單ニ當事者ノ請求シタル訊問事項ニ止マラス其他判決ヲ爲スニ必要ト認ム  
 ル事項ニ付テハ裁判官ニ於テ之カ訊問ヲ爲スヘキモノトス  
 (ロ) 當事者ハ申立テタル事實ハ判決ヲ爲ス爲メ之ヲ援用スルコトヲ得ス  
 當事者ニ於テ事實ノ申立ヲ爲スハ己ノ權利ヲ保護スルカ爲メ最モ必要ナル

モノナリ即チ其事實アリテ始メテ權利ヲ生ゼ又其權利ノ効力ヲ顯ハスモノナ  
 リ故ニ其事實ニ付テハ一ニ當事者ノ意思ニ放任シ裁判官ニ於テ之ニ關與スヘ  
 キモノニアラス故ニ裁判官ニ於テ一個人ノ資格ヲ以テ知得シタル事實ハ裁判  
 官ノ職權ヲ以テ之ヲ援用スルコトヲ得サルモノナリ

(ニ) 裁判所ハ申立テタル事柄ヲ當事者ニ歸スルコトヲ得ス  
 當事者ノ申立テタル事項以外ノモノハ之ヲ當事者ニ歸スルコトヲ得ス又其申  
 立ヨリ多クノモノヲ當事者ニ歸スルコトヲ得ス是レ唯主タル申立ニ付テノミ  
 然ルニアラスシテ從タル申立ニ付テモ亦然リ例ヘハ元本ト果實トヲ請求シタ  
 ル場合ニ於テ裁判所ハ原告ノ申立テタル果實以外ノモノヲ原告ニ歸セシムル  
 コトヲ得ス然レトモ其申立ヨリ少ナキモノヲ當事者ニ歸スルハ道理上爲シ得  
 サルニアラス如何トナレハ申立ヨリ少ナキモノハ其申立中ニ包含スルモノナ  
 レハナリ例ヘハ原告ニ於テ金百圓ノ請求ヲ爲シタルモ裁判所ハ其内五十圓ヲ  
 原告ニ歸セシムルコトヲ得ルモノナリ但シ訴訟費用ニ付テハ申立ナキモ之カ  
 裁判ヲ爲スヘキモノトス

第二原則 實體證據法。

凡ソ事實確認ノ方法ニ付テハ其數固ヨリ一ナラスト雖モ一概ニ其方法ノ是非ヲ論定スヘキモノニアラサルヘシ蓋シ事實確認ノ方法タルヤ一國ノ風俗人情及ヒ其文化ノ程度如何ニ因リ或ハ裁判官ヲシテ事實ノ確認上ニ至大ノ權利ヲ有セシメ或ハ事實ノ確認ニ付テ法律上ノ細則ヲ設ケ裁判官ヲシテ敢テ認定ノ權利ヲ專ラニセシメサルヲ要スルコトアリ故ニ其方法ノ得失ニ付テハ單ニ學理ニ依リテノミ之ヲ斷定スヘキモノニアラサルナリ

其事實確認ノ方法ヲ大別セハ之ヲ實體證據法ト形式證據法トニ分ツコトヲ得ヘシ

形式證據法トハ法律上規定シタル所ノ方式ニ從ヒ立證ヲ爲シタル以上ハ裁判所ハ其事實ヲ確認セザルヘカラサルモノヲ云フ故ニ立證ノ結果ハ當事者自カラ之ヲ提出スルモノニシテ裁判所ハ單ニ其結果ニ從ヒ事實ヲ認ムルニ過キザルモノナリ例ヘハ當事者ニ於テ一定ノ方式ニ從ヒ證言ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ其事實ヲ確認セサルヲ得サルカ如キノ類ナリ之ヲ要スルニ形式證據法ニ

於テハ當事者ハ相手方ニ對シ立證ヲ爲スモノニシテ之ヲ以テ裁判官ノ心證ヲ得ントスルモノニアラザルナリ往昔獨逸ノ訴訟手續ノ如キハ主トシテ其方法ニ依リタルモノナリ

實體證據法トハ全ク之ニ反シ其趣意タルヤ專ラ裁判官ノ心證ヲ得ルヲ以テ目的トス故ニ當事者ニ於テハ立證ノ爲メ敢テ遵守スヘキノ方法ナク隨テ裁判官ニ於テモ亦其立證ノ結果ニ從フノ義務ヲ有セザルモノニシテ單ニ事實ナリトノ心證ヲ得ルトキハ自由ニ之ヲ確認スルコトヲ得ルモノトス是ヲ以テ裁判官ニ於テハ當事者ノ立證アルニ拘ハラス其實事ヲ否認スルコトヲ得例ヘハ證言若クハ書證アルニ拘ハラス他ノ事實ニ依リテ反對ノ事實ヲ認ムルコトヲ得故ニ實體證據法ニ於テハ當事者ハ裁判所ニ對シ證據ノ提出ヲ爲シ裁判所ハ證人ノ訊問若クハ書證ノ推究等ニ依リ其結果ヲ求メザルヘカラス之ヲ要スルニ形式證據法ニ於テハ裁判所ハ自カラ劬ヲ爲スモノニアラスシテ單ニ當事者ヲシテ立證ノ結果ヲ提出セシムルニ過キス之ニ反シ實體證據法ニ於テハ裁判所自カラ劬ヲ爲シ以テ其立證ノ結果ヲ求ムルモノナリ羅馬ノ訴訟手續ノ如キハ主

トシテ實體證據法ニ依リタルモノニシテ今日ニ於ケル獨逸民事訴訟法モ亦其證據法ニ依ルモノナリ我國ノ訴訟手續ニ付テハ往古ハ未ダ確乎タルモノアラズ偶々其手續ニ關スルモノアルモ主ニ刑事ノ訴訟手續ニ屬シ民事ニ屬スルモノハ殆ント稀ナリ隨テ民事訴訟ニ關スル證據法ノ如キハ勿論一定ノモノナシ最近解答文例明治六年ノ發布アリシモ是レ唯訴訟答辨書等ノ書式ヲ示シタルニ過キササルモノニシテ證據法ノ點ニ付テハ毫モ規定スル所ナシ然レトモ實際上ニ於テハ全ク實體證據法ニ依リタルモノ、如シ加之現今ノ訴訟法ニ於テモ其第二百十七條ニ於テ裁判所ハ云々辯論ノ全旨趣及ヒ或ル證據調ノ結果ヲ斟酌シ事實上ノ主張ヲ其實ナリト認ム可キヤ否ヤヲ自由ナル心證ヲ以テ判斷ス可シト明示セリ是レ即チ實體證據法ニ依ルモノナルコトヲ明言シタルモノナリ

第三原則 ○口頭審理○

凡ソ訴訟ヲ審判スルノ方法ニアリ一ハ口頭審理ニシテ一ハ書面審理ナリ書面審理トハ當事者ノ主張スル事實證據方法等ハ悉ク書面ヲ以テ之ヲ裁判所ニ提

物 權 法

法律學士 小宮三保松 講述  
校 友 小田幹治郎 編輯

第二編 物 權

第一章 總 則

民法上ノ權利ハ之ヲ大別シテ人事上ノ權利及ヒ財産上ノ權利ノ二種ト爲スコトヲ得ヘシ

第一ノ人事上ノ權利トハ親權夫權後見人ノ權親族會ノ權ノ如キヲ謂フ

第二ノ財産上ノ權利ハ更ニ之ヲ物權及ヒ人權ノ二種ニ細別スルコトヲ得ヘシ  
物權トハ直接ニ物ノ上ニ行ハル、權利ヲ謂フ故ニ物ト權利トノ外更ニ何人ノ干與ヲ要セスシテ行ハル、コトヲ得ヘシ

物權法

人權トハ人ニ對シテ行ハル。權利ヲ謂フ故ニ權利ノ主體即チ權利者ノ外人  
即チ義務者ノ存在スルニアラサレハ成立スルコトヲ得ス。故ニ權利ノ主體ハ  
人權ノ種類ハ敢テ法律ヲ以テ制限スルコトナシ故ニ當事者ハ如何ナル人權ヲ  
契約スルモ其自由ナリ之ニ反シ物權ノ種類ハ法律ヲ以テ明ニ之ヲ限定シ法律  
ノ指定シタルモノ以外ニ於テハ各人ノ意思ヲ以テ縱ニ之ヲ創設スルコトヲ許  
サス(第一七五條唯或場合ニ於テ當事者カ一定ノ手續ヲ踐ムトキハ人權ヲ以テ  
物權ト同一ノ効果ヲ生セシムルコトヲ得ヘシト雖モ是レ亦法律ノ規定ヲ埃ツ  
テ然ルモノニシテ固ヨリ右ノ原則ニ對スル例外ニアラス例ヘハ人權ノ一種ナ  
ル不動産質借權ヲ登記スルトキハ之ヲ以テ後日其不動産ニツキ物權ヲ取得セ  
タル者ニ對抗スルコトヲ得ルカ如シ(第六〇五條)

物權ノ限定的ナルコト右ノ如シ今民法カ指定シタル物權ノ種類ヲ舉ケレハ  
第一、占有權 第二、所有權 第三、地上權 第四、永小作權 第五、地役權 第六  
留置權 第七、先取特權 第八、質權 第九、抵當權  
是ナリ而シテ占有權所有權地上權及ヒ永小作權ハ主タル物權ニ屬シ地役權以

下抵當權ニ到ルマテハ悉ク從タル物權ニ屬ス尙從タル物權中地役權ハ土地所  
有權ノ從タル物權ニシテ留置權以下ハ總テ債權ノ從タル物權ナリトス。故  
法律ハ何故ニ物權ヲ限定シタルカ物權ノ創設ヲ許サスト言ヘル(第七十五條  
ノ規定ハ如何ナル理由ヨリ出テタルカ是レ太タ明白ナリ蓋シ物權ハ其効力極  
メテ強大ニシテ之ヲ以テ何人ニモ對抗スルコトヲ得ルカ故ニ若シ其創設ヲ各  
人ノ自由ニ放任シ取テ之ヲ制限セサルトキハ實ニ國家經濟上ノ安寧ヲ害スル  
ノ虞アルノミナラス個人間ニ於テモ種々困難ナル訴訟ヲ亂起シ其弊害測ルヘ  
カラサルヲ以テ豫メ法律ヲ以テ之ヲ制限スルノ必要アレハナリ而シテ此制限  
タルヤ獨リ各人ノ創設ヲ許サ、ルノミナラス裁判官ト雖モ亦此制限以外ニ於  
テ濫リニ物權ノ存在ヲ認ムルコトヲ得サルナリ故ニ例ヘハ先取特權ニ關スル  
法律ノ規定以外ニ於テ更ニ一種ノ先取特權ヲ認ムルカ如キハ法律ノ之ヲ許サ  
サル所ナリトス。故ニ民法ハ先取特權ノ種類ハ  
民法以外ノ法律ニ於テ物權ヲ規定セルモノハ例ヘハ鑛業條例砂糖採取法ノ類  
是ナリ而シテ版權特許權意匠權商標權ノ如キハ我民法ノ主義ニ於テ物權ナリ

キ將タ人權ナリキ或ハ二者孰レニモ屬セサル一種特別ノ財產權ナリヤ蓋シ一箇ノ問題ナリトス人或ハ曰ク物權ハ物ノ上ニ行ハル、ノ權利ニシテ物ハ有體物ニ限レリ(第八五條故ニ版權特許權ノ如ク無形ノ財產權即チ無體物ノ上ニ行ハル、權利ハ物權ニアラスト然レトモ論者ハ下ノ如キ場合ニ於テモ尙物權ニアラスト云フヲ得ルカ例ヘハ先取特權カ債權ノ上ニ行ハル、場合ニ於テ其先取特權ハ物權ニアラサルカ又永小作權、地上權等カ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ等シク之ヲ物權ニアラスト言フヲ得ルカ若シ之ヲ以テ物權ナリトセハ版權特許權ノ如キモ亦物權ナリト言ハサルヘカラス惟フニ物權及ヒ人權ノ區別ハ一ニ權利ノ性質ニ因リテ之ヲ定ムヘク決シテ法律ノ用語ニ拘泥スヘカラサルナリ

物權カ物ノ上ニ直接ニ行ハル、權利タルノ結果トシテ二箇ノ効力ヲ生ス一ハ即チ追及權ニシテ二ハ即チ優先權ニナリ  
第一追及權 追及權トハ物權ノ目的物カ第三者ニ移轉シタル場合ニ於テ其物權ヲ有スル權利者カ其物ニ追尾シテ現在ノ所持者及ヒ所持者ノ債權者ニ對シ

テ其物權ヲ對抗スルノ權利ヲ謂フ例ヘハ地上權永小作權又ハ抵當權ノ目的タル不動産ノ所有者カ之ヲ第三者ニ讓渡シタル場合ニ於テ地上權者其他ノ權利者ハ其物權ヲ以テ讓受人ニ對抗スルコトヲ得ルカ如シ故ニ縱令不動産ハ轉スルモ其上ニ存スル物權ハ依然トシテ其効力ヲ失ハサルナリ  
動產上ノ物權ニ於テハ追及權ナキヲ以テ原則トス何トナレハ動產ノ讓渡ハ其引渡ヲ了ルニアラサレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス而シテ動產上ノ物權例ヘハ動產質權動產留置權及ヒ或種ノ動產先取特權ニ於テハ其權利者カ常ニ之ヲ占有スルヲ以テ所有者ハ縱令讓渡ヲ爲スモ之ヲ引渡スコトヲ得ス隨テ權利者ハ追及權ヲ行フノ必要ヲ見ス又之ニ反シテ此等ノ權利者カ其目的物ノ占有ヲ失ヒタルトキハ所有者ハ之ヲ讓受人ニ引渡スコトヲ得ヘク隨テ權利者ニ於テハ追及權ヲ行フノ必要アリト雖モ此場合ニ於テハ占有ノ喪失同時ニ其權利ヲモ消滅セシムルノ結果ヲ生スルヲ以テ最早追及權ヲ行フヘキ理由ヲ有セサレハナリ然レトモ或種ノ動產先取特權ニ於テハ縱令其目的物ノ占有ヲ失フモ未タ其權利ヲ消滅セシムルニ到ラス隨テ此場合ニ於ケル權利者ハ

追及權ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ヘシ例ハ不動産ノ保存者又ハ動産ノ賣主カ第三者ノ爲ニ其先取特權ノ目的物ヲ不正ニ占有セラレタル場合ニ於テ權利者ハ先取特權ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルカ如シ唯此場合ニ於テモ若シ其目的物カ正當ニ第三者則チ讓受人ニ引渡サレタルトキハ最早先取特權ヲ行フコトヲ得ス隨テ追及權モ亦之ヲ行フノ理由ナカルヘシ

所有權及ヒ占有權ニ於テハ追及權ヲ認ムルコトヲ得ス是レ他ナシ所有權又ハ占有權カ他ニ移轉シタル場合ニ於テハ既ニ其所有權又ハ占有權ノ消滅ヲ來セハナリ而シテ所有權又ハ占有權ノ目的物ヲ掠奪セラレタル場合ニ於テ所有者又ハ占有者カ其物ノ返還ヲ要求スルコトヲ得ルハ掠奪ヲ受ケタルニ因リテ生スル一種ノ訴權ニシテ決シテ追及權ノ作用ニアラス此ノ如キハ人權ニ於テモ同一ナレハナリ但第百九十三條ノ權利ノ類ヲ追及權ト看做スハ一種ノ學說ナリ

第二優先權 優先權トハ先取特權實質權又ハ抵當權ヲ有スル債權者カ其目的物ノ競賣代金ニ付キ他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ

謂フ即チ優先權ハ債權ノ擔保タル物權ニノミ存在ス故ニ主タル債權ヲ有セサル物權即チ主タル物權ニ於テハ他ノ債權者ニ先チテ辨濟ヲ受クル場合ナキヲ以テ優先權ナシ例ヘハ所有權地上權永小作權ノ如シ而シテ從タル物權ト雖モ債權ノ擔保ヲ爲サルモノ例ヘハ地役權ノ如キハ固ヨリ優先權ヲ有セス何トナレハ地役權ハ唯所有權ノ從タル物權ニシテ他ノ債權ニ先チテ辨濟ヲ受クルカ如キ主タル債權ヲ有セサレハナリ

此ニ一箇ノ注意スヘキモノアリ留置權是ナリ留置權ハ從タル物權ニシテ而モ債權ノ擔保ヲ爲スモノナリ然ルニ留置權ニ優先權ナシ是レ一見奇異ノ感アリト雖モ能ク其性質ヲ玩味セハ毫モ疑フヘキニアラス蓋シ留置權ハ先取特權實質權又ハ抵當權ノ如キモノト全ク其性質ヲ異ニシ彼ニ於テハ單ニ其目的物ノ代金ヲ以テ辨濟ノ料ニ充ラントスルニ在リト雖モ此ニ於テハ單ニ其目的物ヲ抑留シテ債務者ノ辨濟ヲ促サントスルニ過キス故ニ唯之ヲ以テ債務ノ履行ヲ督責スルコトヲ得ヘシト雖モ進ンテ其物ノ代金ニ就キ優先ノ辨濟ヲ受クルカ如キコトハ決シテ之ヲ許ササルナリ然レトモ若シ其債權者ニシテ留置權ノ外更ニ優

先權ヲ有スル場合ニ於テハ右ノ例外タルヘキコト言フヲ缺タス例ヘハ物ノ賣主カ一方ニ於テハ代金ノ支拂ヲ受クルニ到ルマテ其物ヲ抑留スルコトヲ得ヘク更ニ他方ニ於テハ既ニ其物ヲ引渡シタルトキハ之ヲ競賣セシメ其代金ニ就テ優先權ヲ行フコトヲ得ルカ如シ

又二箇以上ノ優先權カ同一物ノ上ニ行ハル、コトアリ此場合ニ於テハ各權利者ハ法律ノ規定セル順序ニ從ハサルヘカラス例ヘハ二箇ノ抵當權カ同一物ノ上ニ競合スル場合ニ於テハ各權利者ハ其登記ノ順序ニ依リテ其前後ヲ定ムヘキカ如シ(第三七三條然レトモ二箇ノ先取特權カ競合シ又ハ先取特權ト抵當權トカ競合シタル場合ニ於テハ其順序ニ關シ甚タ複雜ナル關係アリ其詳細ハ後段ニ到リテ之ヲ説明スヘキヲ以テ今ハ之ヲ省略スヘシ(第三二九條乃至第三三二條第三三四條第三三五條第三五六條)

物權ノ効力ハ大略右ノ如シ今各種ノ物權ニ付キ其性質ヲ概言セハ一所有權ハ民法上ノ權利中最モ完全且ツ安全ナルモノニシテ他ニ比類ナク故ニ他ノ物權ニ於テ見ル所ノ利益ハ悉ク之ヲ含有セリ二占有權ハ民法上一種特別ノ權利ニ

シテ法律ハ占有者ニ與フルニ回收訴權其他ノ占有訴權ヲ以テシ其權利ヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得セシメタリ三 地上權四 永小作權五 地役權等ニ在リテハ其目的物タル不動産カ何人ノ手ニ移轉スルモ毫モ痛痒ヲ感セス權利者ハ常ニ追及權ヲ以テ其所持者ニ對抗スルコトヲ得ヘシ六 留置權ヲ主タル債權ノ辨濟ヲ受クルニ到ルマテ其目的物ヲ抑留スルコトヲ得ルノ權利ニシテ七、先取特權八、質權九、抵當權ノ如キハ孰レモ債務者ヲシテ縱ニ其擔保物即チ權利ノ目的物ヲ處分スルコトヲ得サラシメ若シ債權者カ之ヲ處分シタル場合ニ於テハ其處分ヲ以テ權利者ニ對抗スルコトヲ得サラシメ且ツ債務者カ何程負債ヲ増加スルモ權利者ニ對シテ毫モ影響ヲ及ボサハル等ノ効力アリトス以上物權ノ何タルヤヲ説明セシテ以テ次ニ物權ノ得喪變更及ヒ權利ノ混同ニ付テ説明セン

第一物權ノ設定移轉及ヒ變更

一ノ物權カ新ニ成立スル場合ヲ稱シテ物權ノ設定ト謂ヒ而シテ現ニ存在セル一ノ物權カ他人ニ渡ル場合ヲ稱シテ物權ノ移轉ト謂フ



物權ノ設定及ヒ移轉ハ法律ヲ規定ニ因ルモノト人ノ意思ニ因ルモノトアリ例  
 (ハ先取特權留置權若クハ無主物附合物ノ所有權ハ法律ノ規定ニ因リテ設定  
 セラレ又占有ニ因リテ物權ヲ取得スル場合ノ如キハ法律ノ規定取得時効ニ因  
 ル移轉ナリトス)第二三九條第二四一條以下第一四四條乃至第一六五條第一九  
 二條乃至第一九五條次ニ物權カ人意ニ因リテ設定セラレ又ハ移轉スル場合ハ  
 廣ク契約又ハ遺言ニ因ルモノナリ而シテ契約及ヒ遺言ハ畢竟當事者ノ意思表  
 示ニ外ナラス故ニ第七十六條ハ規定シテ曰ク

物權ノ設定及ヒ移轉ハ當事者ノ意思表示ノミニ因リテ其効力ヲ生ス  
 (第九三條乃至第九八條參照)此意思表示ハ明示及ヒ默示ノ場合ニ別ツコトヲ  
 得ヘシ明示ノ意思表示ハ文書電信電話若クハ言語容態等ニ因リテ行ハレ默示  
 ノ意思表示ハ當事者ノ關係及ヒ其時ノ情況ニ因リテ意思表示アリト推測スヘ  
 キ場合ニ於テ行ハル  
 物權ノ設定及ヒ移轉ハ其當事者間ニ於ケル關係ト第三者ニ對スル關係トニ因  
 リテ大ニ其効力ヲ異ニス

其一 物權ノ設定及ヒ移轉ノ當事者間ニ於ケル効力 物權ノ設定及ヒ移轉ハ  
 其當事者間ニ於テハ單ニ當事者ノ意思表示ノミニ因リテ其効力ヲ生ス第一七  
 六條此法則ハ佛民法ヲ始メ之ヲ母法トシタル各國ノ法律ニ於テ等シク採用ス  
 ル所ニシテ我民法モ亦之ニ倣ヒシモノナリ彼ノ羅馬法ニ於テハ特定物ノ所有  
 權ト雖モ當事者ノ意思表示ノミニ因リテ移轉セス更ニ其引渡ヲ必要トセシム  
 此ノ如キハ實際ノ不便少ナカラサルヲ以テ近時ノ法律ニ於テハ殆ント羅馬法  
 ノ原則ヲ採用スルモノナシ  
 今此規定ニ依レハ當事者カ意思表示ヲ爲スノミニ因リテ物權ハ設定セラレ又  
 ハ移轉スヘク之カ爲ニ更ニ何等ノ形式ヲモ要セサルナリ隨テ左ノ結果ヲ生  
 ス

- 一、 諾約者即チ義務者ハ重キテ同一ノ物權ヲ他人ノ爲ニ設定シ又ハ移轉ス  
 ルコトヲ得ス之ニ背クトキハ訴追ヲ免レス
- 二、 右ノ場合ニ於テハ當ニ民事上ノ訴追ヲ受クルノミナラス刑事上ノ制裁  
 ヲモ受ケサルヘカラス

三、設定又ハ移轉シタル權利ノ目的物カ滅失又ハ毀損スルトキハ其害ハ常ニ要約者債權者即チ買主ノ負擔ニ歸ス(第五三四條)

此ニ二三ノ注意スヘキ點アリ

一、物權ノ變更ニ關シテモ當事者ノ意思表示ノミヲ以テ足レリトス故ニ例ヘハ既ニ設定セラレタル抵當權ニ變更ヲ加ヘントスル場合ニ於テモ單ニ當事者ノ意思表示ノミニ因リテ其効力ヲ生ス

二、物權ノ設定又ハ移轉カ當事者ノ意思表示ノミニ因リテ其効力ヲ生スル場合ハ一ニ特定物ニ關スル場合ニ限ル故ニ不特定物ニ關シテハ其目的物カ確定シタルトキニ於テ始メテ設定又ハ移轉ノ効力ヲ生ス例ヘハ甲者米三俵ヲ乙者ニ賣渡スノ契約ヲ爲シタリトセンニ其契約ノミニテハ未タ目的物ノ所有權ヲ移轉セス更ニ甲者カ之ヲ乙者ニ引渡スカ若クハ双方立會ノ上其引渡スヘキ物ヲ指定シタル後ニ於テ始メテ權利ノ移轉アルノミ(第五三四條第二項)

三、物權ノ設定及ヒ移轉ニ停止條件ヲ附シタルトキハ其設定及ヒ移轉ハ當事者ノ意思表示ノミニ因リテ其効力ヲ生セス即チ其條件成就ノ後始メテ効力ヲ

生スヘシ(第一三七條隨テ條件ノ未タ成就セサル前ニ際リ其目的物カ天災ニ因リテ滅失スルトキハ債權者ハ其損害ヲ負擔セス(第五三五條尙我新民法ニ於テハ條件ノ効力ハ特ニ當事者ノ合意アルニアラサレハ既往ニ溯ラス(第一二七條))

其二、物權ノ設定及ヒ移轉ノ第三者ニ對スル効力、物權ノ設定、移轉及ヒ變更ノ第三者ニ對スル効力ハ其目的物カ動産ナル場合ト不動産ナル場合トニ因リテ自ラ別アリ

一、不動産上ノ物權ハ其設定、移轉及ヒ變更ヲ登記スルニアラサレハ第三者ニ對シテ効力ナシ(第一七七條然レトモ不動産ノ留置權又ハ占有權ハ其性質上之ヲ登記スルノ要ナシ又不動産上ニ於ケル一般ノ先取特權ハ縱令登記ヲ爲サ、ルモ之ヲ以テ特別擔保ヲ有セサル) 第三者ニ對抗スルコトヲ得ヘシ(第三三六條) 而シテ不動産上ノ賃借權ハ物權ニアラスト雖モ之ヲ登記スルトキハ第三者ニ對抗スルコトヲ得ヘシ(第六〇五條)

二、動産上ニ於ケル物權ノ設定、移轉及ヒ變更ハ原則トシテハ債權者カ其目的

物ノ占有ヲ爲スニ因リテ始メテ之ヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得ヘシ例ハ甲者カ乙者ヨリ一箇ノ動産ヲ買受ケタリトセンニ其引渡ヲ受ケテ之ヲ占有スルニアラザレハ其買賣契約ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ザルカ如シ而シテ動産ニ關スル物權ハ占有權所有權留置權先取特權及ヒ質權ノ數種ニ過キヌ此等ノ權利ハ何レモ其占有ヲ必要トス唯先取特權ノ或者ニ限リ債權者ノ占有ヲ必要トセザルモノアリト雖モ是レ亦其占有カ第三者ニ移ルトキハ最早其先取特權ヲ行フコトヲ得ス故ニ此場合ニ於テモ尙占有ノ必要ナシトセス此ノ如ク動産上ノ物權ニ於テハ占有ヲ以テ第三者ニ對スルノ必要條件ト爲セリ是レ全ク動産ノ性質上然ラザル所ニシテ動産ハ轉讓極メテ自在ナルカ故ニ其占有ヲ以テ權利ノ所在ヲ定ムルノ外途ナケレハナリ格言ニ曰ク「動産ニ付テハ占有ハ權原ニ等シ」ト諸子之ヲ記懸シテ可ナリ而シテ此ニ一ノ例外アリ即チ盜賊又ハ遺失物ノ占有者ハ其原所有者ニ對シテ其占有ヲ對抗スルコトヲ得サルモ是ナリ固ヨリ實際ノ必要ヨリ出テタル規定ノミ

第二物權ノ混同

其一 同一物ニ關シ其所有權ト他ノ物權トカ同一人ニ歸シタルトキハ其物權ハ混同ニ因リテ消滅ス第一七九條第一項蓋シ人ハ自己ニ對シテ權利ヲ有シ義務ヲ負フコトヲ得ス隨テ自己ノ所有物ノ上ニ他ノ權利ヲ有スルコトヲ得ザルナリ例ヘハ甲者カ乙者ノ所有セル或土地ノ上ニ地上權若クハ抵當權ヲ有シタリトセンニ若シ甲者ニシテ其土地ヲ買受ケルトキハ地上權又ハ抵當權ハ同時ニ消滅スルカ如シ此他相續ノ如キハ最モ顯著ナル混同ノ場合トス

然リト雖モ物權カ混同ニ因リテ消滅スルノ故ヲ以テ妄リニ第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス何トナレハ混同ハ一ニ當事者ノ意思ニ因リテ生スルモノニシテ第三者ハ毫モ之ニ與ラス否寧ロ第三者ノ力ヲ以テ之ヲ妨ケルコトヲ得ザルモノナレハナリ是ヲ以テ法律ハ特ニ例外ヲ設ケ其混同カ第三者ノ權利ヲ害スル場合ニ於テハ其物權ノ消滅ヲ認メザルナリ例ヘハ甲者カ乙者ノ所有地ノ上ニ永小作權ヲ有シ而シテ同時ニ其永小作權カ丙者ノ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ甲者カ乙者ノ實產ヲ相續シタリトセンニ若シ其永小作權カ混同ニ因リテ消滅スルトキハ丙者ハ之カ爲ニ其權利ヲ失フノ結果ヲ生スルヲ以テ法律ハ此

ノ如キ場合ニ限リ尙其永小作權ノ存在ヲ認ムルナリ

其二 所有權以外ノ物權例ハ地上權ノ如キ權利カ他ノ權利例ハ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ其地上權ト抵當權トカ同一人ニ歸スルトキハ其抵當權ハ混同ニ因リテ消滅ス(第一七九條第二項)但シ此場合ニ於テモ前項ト等シク第三者ヲ害スル場合ニ於テハ其抵當權ハ消滅セス例ハ甲者カ或土地ノ上ニ地上權ヲ有シ而シテ乙者カ其地上權ノ上ニ抵當權ヲ有シ且ツ丙者カ其抵當權ノ上ニ更ニ抵當權即チ抵當權ノ抵當權ヲ有スル場合ニ於テ若シ甲者カ乙者ノ相續人トナルモ其乙者ノ有セシ抵當權ハ消滅セサルカ如シ何トナレハ其結果丙者ノ抵當權ヲ失ハシムルニ到レハナリ

其三 右混同ニ關スル規則ハ之ヲ占有權ニ適用スルコトヲ得ス(第一七九條第三項)

一、同一物ニ付キ所有權ト占有權ト併存スルハ寧ロ普通ノ狀態ナルヲ以テ之ニ混同ノ原則ヲ適用スルトキハ殆ント占有權ヲ認メタル効ナクレハナリ

二、占有權ハ他ノ物權ノ目的タルコトヲ以テ同一人ニ歸スルモノハ其物權

### 親族法

法律學士 掛下重次郎 講述  
校 友 竹内喜一郎 編輯

### 緒 論

親族法ハ民法ノ一部ニ屬シ民法ノ他ノ部分ト同シク私人相互ノ關係ヲ規定シタルモノナルヲ以テ其私法ノ一部ニ屬スルコトハ固ヨリ言フヲ俟タス然レトモ親族法中ニ規定セル事項ハ悉ク私法ノ規定ナリト言フコトヲ得ス例ヘハ檢事裁判所戶籍吏等國家ノ機關ニ關スル規定ノ如キハ私人相互間ノ關係ヲ定メタルモノニアラスシテ親族關係ニ關聯セル公法的規定ナリトス

親族法ハ財產法ニ對スルモノニシテ人事戶主家族婚姻親子親權後見及ヒ親族會ニ關スル事項ヲ規定スト雖モ必スシモ財產ニ關スル規定ナシトセス其親族

關係ニ因リテ生スル親族間ノ財産關係ハ亦親族法ノ規定スル所ナリ  
 親族法上ノ權利ハ公益上ノ必要ニ基キタルモノ多キヲ以テ法律ハ其權利者ノ  
 利益ヲ保護スルト同時ニ其相手方ノ利益ヲモ保護スルモノ擧シトセス例ヘハ  
 親カ子ヲ監護シ教育スルハ其權利タルト同時ニ又義務ナルカ如シ此ノ如ク親  
 族法上ノ權利ハ多ク公益ニ基キ單ニ權利者ノ私益ヲ保護スルノ目的ヲ有スル  
 モノ極メテ擧ナキヲ以テ親族法ノ規定ハ概テ強行法ノ性質ヲ有セリ故ニ民法  
 中單ニ財産ニノミ關スル規定ニ於テハ法律ハ其少數ノ場合ヲ除クノ外當事者  
 ノ意思ヲ以テ法律ノ規定セル關係ヲ變更スルコトヲ許セリ即チ換言スレハ財  
 產法ハ聽許法ノ性質ヲ有スレトモ親族間ノ關係ハ之ニ反シ法律カ特ニ明言セ  
 ル場合ノ外ハ個人ノ意思ヲ以テ法律カ豫シメ定メタル關係ヲ變更スルコトヲ  
 許サ、ルヲ原則トス是レ財產法ハ多ク私益ニ關シ親族法ハ多ク公益ニ關スル  
 コリ生スルノ差異ニ外ナラス

此第四編ヲ分テ第八章ト爲ス即第一章總則第二章戶主及ヒ家族第三章婚姻  
 第四章親子第五章親族第六章後見第七章親族會第八章扶養ノ義務是ナリ

### 第四編 親族

#### 第一章 總則

此章ニ於テハ親族ノ範圍及ヒ親等ノ算定法ニ關スルコトヲ規定セリ是レ親族  
 法ノ基礎ニシテ他ノ各章ニ掲ケタル規定ニ共通スルモノナリ  
 親族關係ノ原因 家族制度ヲ以テ組織セラレタル社會ニ於テハ法律上ノ親族  
 關係ハ二箇ノ方面ニ於テ其基礎ト爲ルヘキ原因ヲ有スルヲ通例トス(一)男女ノ  
 肉體並ニ精神上ノ結合及ヒ之ニ起因スル血緣(二)同一家族團體員タルコト是レ  
 ナリ而シテ親族編ハ此等ノ原因ヲ認メタルモノニシテ親族關係發生ノ原因ヲ  
 分チテ三ト爲セリ即チ一婚姻二血緣三養子緣組是ナリ  
 親族ノ種別 親族ハ其親族關係ノ種類ニ因リテ四種ニ區別ス一血族二準血族  
 三配偶者四姻族是レナリ  
 血族トハ天然ノ血緣關係ヲ有スルモノヲ謂ヒ準血族トハ天然ノ血緣ヲ有セス  
 ト雖モ法律上血族ニ準セラル、モノ(繼父母ト繼子トノ關係及ヒ嫡母ト庶子ト  
 ノ關係養子ト養親及ヒ其血族トノ關係ヲ謂フ而シテ配偶者トハ婚姻ニ因リテ



ル關係ハ一等親ニシテ夫ノ婦ニ對スル關係ハ二等親タルカ如シ其二ハ血統ノ  
 親疎遠近ヲ示スモノニシテ此主義ハ古昔羅馬ニ於テ行ハレタルカ故ニ之ヲ羅  
 馬法主義ト稱シ我民法ニ於テモ之ヲ採用セリ(第七二六條)即チ親族ノ遠近ハ世  
 數ヲ算シテ之ヲ定メ一世ヲ以テ一等親ト爲シタリ例ヘハ親ト子トノ間ハ一等  
 親ニシテ祖父母ハ二等親孫モ亦タ二等親タルカ如シ而シテ血族ハ其自然ノ系  
 統ニ因リテ直系親ト傍系親トノ二種ニ區別セラル共同ノ祖ヨリ一直線ニ降下  
 セルモノハ直系親ニシテ祖父母父母子孫等是ナリ次ニ共同ノ祖ヨリ出ツル  
 モ其系統ノ直降セサルモノハ傍系親ニシテ伯叔父母兄弟姊妹從兄弟甥姪等是  
 レナリ其直系親ノ親等ヲ算スルハ極メテ簡易ニシテ只其世數ノミヲ算スルヲ  
 以テ足レリトス前ニ舉ケタル例ニ依リテ知ルヘシ而シテ此親等ハ皆ニ血族親  
 間ニノミ適用セララルモノニアラスシ姻族間ニ於テモ亦之ニ準シテ其親等ヲ  
 算定ス即チ姻族間ノ親等ハ其配偶者ヲ目安トシ其者トノ間ニ於ケル親等ニ依  
 リテ定マルナリ故ニ例ヘハ夫ハ婦ノ父母ニ對シテ一等姻族親タルカ如シ次ニ  
 傍系親ノ親等ヲ定ムルハ直系親ノ如ク簡單ナラス之ヲ定ムルニハ其一人又ハ配

偶者ヨリ同始祖ニ遡リ其始祖ヨリ他ノ一人ニ下ルマテノ世數ニ依ル今傍系親  
 ノ親等ノ算定法ヲ容易ニ了解セシメンカ爲メ一二ノ例ヲ舉ケンニ兄弟伯叔父  
 母ニ就テ云ヘハ兄弟ノ同始祖ハ父母ナルヲ以テ兄ヨリ其父母ニ遡ルノ一世父  
 母ヨリ弟ニ下ルノ一世合セテ二世ナルカ故ニ兄弟間ハ二等親ナリ又己ト伯叔  
 父母トノ同始祖ハ祖父母ナルヲ以テ己ヨリ祖父母ニ遡ルノ二世二等祖父母ヨ  
 リ伯叔父母ニ下ルノ一世一等親合セテ三世ナルカ故ニ伯叔父母ニ對スル親等  
 ハ三等親ナリトス  
 尙ホ直系親傍系親等ノ算定ヲ容易ナラシムルカ爲メ左ニ畧表ヲ掲ケン



親族法

人事編第二十條第二項ハ尊屬親ト卑屬親アルコトヲ示レタレトモ此等ノ關係ハ特ニ注文ヲ待テ始メテ知ルモノニアラスシテ自然ニ定マラレルモノナリ即チ直系ニ於テ自己ノ出ル所ノ親族ハ尊屬親ニシテ自己ヨリ出テタル親族ハ卑屬親ナリ

以上ハ血族及ヒ姻族ニ於ケル親等ノ算定法ニ關セリ 準血族ニ於ケル親等ノ算定法ヲ述ヘン

養子ト養親及ヒ其血族間 養子ト養親及ヒ其血族トノ間ニ於テハ養子縁組ノ日ヨリ血族間ニ於ケルト同一ノ親族關係ヲ生ス(第七二七條)

養子ハ養ニ述ヘタル如ク養親トノ間天然ノ血族ニハ非ラスト雖モ法律ノ規定ニ由リテ之ニ準セラレタリ養子ハ其縁組ノ日ヨリ養親ノ嫡出子タル身分ヲ取得シ養家親族ノ一員ト爲ルモノナルカ故ニ(第八〇六條)養子縁組ヲ爲シタルトキハ其日ヨリ養子ハ養家ニ於テハ恰モ其血族ト同キ關係ヲ有ス而シテ養子ヨリ養親及ヒ其血族ニ對スルトキモ亦養親及ヒ其血族ヨリ養子ニ對スルトキモ其關係異ラス然レトモ此關係ハ此等ノ者ノ間ニ限ルモノニシテ養親ト養子ノ血

民法債權(自賣買至商法行為)

法學士 兩角彦六 講述  
校 友 上野政雄 編輯

第三節 賣買

第一款 總則

普通ノ俗解ニ從ハンカ荷モ或ルモノト金錢ト交易スル一切ノ方法ハ悉ク賣買ナラサルモノナシ例ヘハ明治ノ初年ニ禁令アリタル人ノ賣買ト云フカ如キ或ハ今日ニ於テモ其例證アル官職階位ノ賣買ト云フカ如シ其他法律ノ所謂雇傭契約ノ如キモ此廣義ヲ以テスルトキハ亦努力ノ賣買ナリト云フコトヲ得ヘシト雖モ是レ皆法律上所謂賣買ナルモノニアラス法律上ノ所謂賣買ハ別ニ一定ノ意義アリテ存ス



正 誤

兩角民法債權括弧中自賣買至商  
法行爲トアルハ自賣買至不法行  
爲ノ誤也

遠ク原始社會ニ遡リテ考フルニ人類カ各自ノ需用ヲ充タスノ方法タル強取掠奪ノ野蠻手段ニアラサレハ平和ノ手段トシテハ物ト物トヲ交換シテ相互ノ不足ヲ補充スルヨリ他ナカリシコトハ疑ヲ容レズ然レトモ我カ欲スル處ハ偶々彼ノ欲スル所タリ我ノ欲セサル所ハ同時ニ彼ノ欲セサル所ナルコトナキヤ期セサルカ故ニ此實物交換ノ方法ハ或區域内ニ於テハ事實上困難ニシテ又到底爲シ難キ場合アルヲ免レス茲ニ於テカ勢ヒ總テノ物ヲ通シテ如何ナル物トモ交換シ得フルヘキ一ノ媒介物ヲ使用スルニ非レハ各人ノ需要ヲ充タス能ハサルノ必要ニ迫ラル所謂通貨ナルモノハ此目的ノ爲ニ社會ニ使用セラル、所ノモノナリ即チ各人カ自己ノ製作シタル物ヲ以テ先ツ此ノ通貨ニ換ヘ更ニ其通貨ヲ以テ他ノ必要品ヲ得ルノ用ニ供シ以テ有無交換ノ目的ヲ達スルコトヲ得ヘシ賣買ナルモノ即チ是ナリ故ニ賣買ハ一言ニシテ之ヲ蔽ヘハ二重ノ交換ヲ包含セルモノト云フコトヲ得ヘシ如斯社會發達ノ形跡ヨリ見ル時ハ實物交換先ツ行ハレ而シテ後通貨ノ制度ニ依リテ賣買ノ實用ヲ見ルニ至リタルコト明ナリト雖モ而モ人類ノ需用ハ益々増進シテ止マズ而シテ通貨ハ萬物ノ價格ヲ

代表シテ蓄積シ易ク携帯シ易ク保存シ易キカ故ニ賣買ノ手段ニ依頼スルノ必要ハ滋々増進シ之ト同時ニ實物交換ナル取引方法ハ著シク其實用ヲ減シ來レリ故ニ何レノ邦國ニ於テモ私法ニ關スル成文中賣買ニ關スル規定ハ頗ル重要ナル部分ヲ占メ交換ニ關シテハ僅カニ一二ノ規定ヲ存スルニ過キス去レハ賣買ト交換トハ其發達ノ順序ニ於テ相前後シ其性質亦相似タルカ故ニ賣買ニ關スル規定ハ殆ント擧テ之ヲ交換ニ適用スルコトヲ得加之既ニ雇傭契約ノ如キモ亦一ノ勢力ノ賣買ナリト云フヲ得ルカ如ク其他貸借組合和解等ノ如キモ當事者双方ヨリ或供與ヲ爲ス所ノ有價契約トシテハ多少ニマレ賣買ノ原素ヲ包含セサルモノナキカ故ニ賣買ニ關スル規定ハ他ノ契約ノ性質カ之レニ反セサル限リハ凡テノ有價契約ニ準用セラル、モノタリ(第五五九條從テ賣買ハ各種ノ契約中最モ研究ノ要アルヲ知ル可シ去レハ予モ亦故ラニ法律ノ規定ヲ前後シテ贈與ヲ捨テ賣買ヨリ講述スルコト、セリ

第一項 賣買ノ定義及ヒ性質  
法律上所謂賣買トハ前述スル如ク汎博ノ意義ヲ有スルモノニ非ラス其目的ニ

於テ又其趣旨ニ於テ法律上明ニ限定セラルル即チ法律上所置賣買トハ

當事者ノ一方カ或ル財産權ヲ相手方ニ移轉スルコトヲ約シ相手方カ之ニ其代金ヲ支拂フコトヲ約スルニ因リテ効力ヲ生スル契約ナリ(第五五條)

此定義ハ佛法舊法等ニ採用スル所ト其趣ヲ異ニスル所アリ今此定義ニ從ヒテ賣買契約ノ性質ヲ列叙センカ

第一 賣買ハ諾成契約ナリ 即チ當事者双方ノ意思表示ノミヲ以テ成立スル契約ニシテ當事者双方ノ意思カ賣買ノ目的物及ヒ代金ニ付キ相一致スル時ハ契約ハ茲ニ成立ス可シ換言スレハ目的物ノ引渡又ハ代金ノ支拂ノ有無ハ毫モ賣買契約ノ成立ニ影響ヲ及スモノニ非サルカ故ニ隨テ未タ引渡ナキモ目的物ノ滅失ハ債權者タル買主ノ負擔ニ歸シ賣主ハ目的物ヲ得サルモ代金ヲ任拂ハサル可カラサルノ結果ヲ見ルコトアル可シ(第五三四條)尤モ賣買ノ効力ヲ第三者ニ對抗センニハ更ニ特別ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス(第一七七條)第一七八條

第二 賣買ハ有價契約ナリ 賣買ハ賣主ヨリ權利ヲ移轉スルニ對シテ買主ヨ

リ代金ヲ支拂フモノナルカ故ニ有價契約ナルコト論ナシ若シ一方ノ權利移轉ニ對シテ他ノ一方ヨリ代金ヲ支拂ハサルモノナル時ハ純然タル一ノ贈與タリ縱令代金ノ支拂ヲ約スルモ其代金ハ全ク假想的ノモノニシテ目的物ノ對價ト認ムルコト能ハサルモノナル場合ニ於テハ事實上又一ノ贈與ト認定スルノ外ナシ斯ノ如ク行爲ノ有價ナルト無價ナルトニ依リテハ法律ノ適用異ナリ舊民法ニ於テハ廢罷訴權ニ關シテ法律ノ規定ヲ異ニセルモ現行民法ニ於テハ此點ニ付キ何等ノ區別ヲ設ケス唯當事者ノ能力ニ付テハ之レカ適用ヲ異ニスルコト第一編第一章第二節ニ於テ規定スル所ノ如シ

第三 賣買ハ双務契約ナリ 賣主ニ於テハ財産權ヲ移轉スルノ義務ヲ負ヒ買主ハ代金ヲ支拂フノ義務ヲ負フ故ニ其契約ハ双務契約ナリ隨テ契約ノ總則ニ規定セラルル同時履行ノ原則第五三三條危險負擔ノ原則第五三四條以下ノ如キハ賣買ニ於テ全然其適用ヲ見ルモノナリ

此第三ノ性質ニ付テハ舊民法ノ規定ト對照シテ説明ス可キモノアリ舊民法財產取得編第二十四條ハ賣買ヲ定解シテ

「買買ハ當事者ノ一方カ物ハ所有權又ハ其支分權ヲ移轉シ又ハ移轉スル義務ヲ負擔シ他ノ一方又ハ第三者カ其定マリタル代金ノ辨濟ヲ負擔スル契約ナリ」

ト云ヘリ此規定ハ舊民法財産編第三百三十一條第三百三十二條ノ原則物權移轉ノ法則ニ胚胎スルモノニシテ要スルニ舊法ノ主義ニ於テハ特定物ヲ授與スル契約ハ契約アルヤ直ニ其所有權ヲ移轉スルモノナルカ故ニ別ニ所有權移轉ノ義務ヲ生スルモノニアラス但特定物ヲ目的トスル場合ニ於テハ其物ヲ指定スルカ又ハ之ヲ引渡シテ初テ所有權ヲ移轉スルカ故ニ讓渡人ハ契約ニ依テ其所有權ヲ移轉スルノ義務ヲ負擔ス可シト云フニ在リ從テ本條ニ於テ所有權ヲ中界移轉シ又ハ移轉スル義務ヲ負擔ス下ニ様ノ區別ヲ表示シタルモノニ外ナラス然レトモ特定物授與ノ場合ニ於テ所有權移轉ノ義務ナシト解スルハ果シテ至當ナルヤ否ヤ實際ノ適用上實用ナシトスルモ學理問題トシテハ頗ル研究ノ價值アリトス今此點ニ付キ從來ノ法律沿革ヲ徵證スルニ成文法ノ淵源タル羅馬法ニ於テハ特定物ノ所有權ヲ移轉スルニ付テモ將タ不特定物ノ所有權ヲ移

轉スルニ付テモ必ス規定ノ引渡ナカルヘカラス故ニ一ノ特定物ヲ賣買スルモ當事者ノ合意ノミヲ以テハ唯賣主ヲシテ物權移轉ノ義務ヲ負擔セシメ買主ヲシテ代金支拂ノ義務ヲ負擔セシムルニ過キサルモノトセルモ斯ノ如ク權利ノ移轉ニ一々現實ノ引渡ヲ要スルハ實際其煩ニ堪ヘサルヲ以テ之ニ代フルニ假想ノ引渡トシテ或ハ目的物ヲ指示スルノミヲ以テ引渡アリタリト看做シ或ハ單ニ證書ヲ授受スルノミヲ以テ引渡アリタルモノト看做ス等大ニ現實ノ引渡ヲ省略スルコトニ勉メタリ是レ佛國古法ニ於テモ所謂簡易ノ引渡トシテ採用セラレタル所ナリ然ルニ佛國那翁法典第千三百三十八條ニ於テ物ヲ授與スルノ義務ハ契約者双方ノ承諾ノミヲ以テ完結ス其義務ハ債權者ヲ以テ所有者ト爲シ其引渡ナキモ債權者ヲシテ其物ノ危險ヲ負擔セシム下規定セラレタルコリ此條文ニ付キ議論ニツニ岐レタリ或ル學說ニ依レハ此條文ハ羅馬法ト異ナリテ全ク所有權ノ移轉ヲ以テ契約直接ノ効力ト爲シタルモノナリト主張セ又他ノ學說ニ依レハ所有權移轉ハ契約ノ間接効力ナリ即チ契約ヨリ生スル所有權移轉ノ義務ノ履行セラレタル結果ニ外ナラス唯特定物ノ場合ニ於テハ法律カ

所有權移轉ノ義務ヲ以テ即時ニ履行セラレタルモノト看做スカ故ニ外ナラス  
トセリ法律變遷ノ形跡ニ於テ第二說ハ既ニ歴史の理由ヲ有スルモノト云フ可  
シ然ルニ我舊民法ニ於テハ全ク第一說ヲ採用シ特定物ノ場合ニ於テハ所有權  
移轉ヲ以テ契約ノ直接ノ効力ト爲セリ是ニ於テ乎論者之ヲ批難シテ曰ク所有  
權移轉カ果シテ契約ノ直接ノ効力ナリトセハ特定物賣買ノ場合ニハ賣主ハ何  
等ノ義務ヲモ負擔セサルカ故ニ其賣買ハ双務契約ニ非スト云ハサルヘカラス  
ト此批難ニ對シ舊民法ノ起草者ボアンナード氏ハ辨解シテ曰ク假令特定物ヲ  
目的トスル賣買ハ當事者間ニ合意アルト同時ニ直チニ所有權ヲ移轉スルカ故  
ニ所有權移轉ノ義務ナシトスルモ賣主ハ尙ホ其物ヲ引渡スヘキ義務アリ又買  
主カ其物ヲ追奪セラレタル場合ニハ賣主ニ擔保ノ義務アリ而シテ買主ニ於テ  
モ代金支拂ノ義務アルカ故ニ双務契約ナルコトヲ妨ケスト然レトモ余輩ノ信  
スル所ニ依レハ賣主ニ引渡ノ義務アリ追奪擔保ノ義務アルヲ以テ特定物ノ賣  
買契約ヲ双務契約ナリト論スルハ甚タシキ誤解ナリト云フヲ憚ラス何トナレ  
ハ目的物引渡ノ義務ハ權利移轉ノ義務ノ結果ニ外ナラスシテ所謂追奪擔保ノ

義務ナルモノハ亦權利移轉ノ義務アルカ故ニ外ナラス權利移轉ノ義務ナクシ  
テ權利ヲ移轉スルコト能ハサルニ付キ擔保ノ義務存スヘキノ理由ナケレハナ  
リ蓋シ當事者ノ相對的關係ニ於テ意思表示ニ依リテ効力ヲ生スル權利行爲ニ  
於テハ尙モ權利移轉ノ義務ナクシテ直ニ權利移轉ヲ生スルコトハ想像ヲ得ニ  
ル可キニ非ス權利移轉ハ事實ニシテ其事實ハ義務ナクシテ生スルモノニ非ル  
ヲ以テナリ故ニ特定物ヲ目的トスル場合ト雖モ賣主ハ一度權利移轉ノ義務ヲ  
負擔シ而シテ即時若クハ若干時ノ後ニ於テ其權利移轉ノ實行セラレルモノニ  
外ナラス惟フニ舊民法ノ規定ノ如キハ所有權ノ即時移轉ヲ以テ特定物賣買ノ  
要素ト誤認セルヨリ來レルナル可シ  
特定物ノ賣買ハ通常契約ト同時ニ之カ所有權ヲ移轉スレトモ特約ヲ以テセハ  
亦其所有權移轉ヲ後日ニ延期スルコトヲ得ヘシ是レ實際ニ於テ屢見ル所ニシ  
テ又予輩ノ前說ヲ確爾タラヤムルノ一理由タリ然ルニボアンナード氏ハ此ノ  
如キ契約ハ所有權ニ制限ヲ付スルモノナリト非難スレトモ所有權其モノハ此  
場合ニ於テ何等ノ制限ヲ受ケルコトナシ唯之カ移轉ヲ後日ニ延引スルノミ故

ニ新民法ニ於テハ第五百五十五條ノ法文ニ於テモ單ニ「財產權ヲ相手方ニ移轉  
スルコトヲ約シ云々」トノミ規定シ即時ニ之ヲ移轉スル場合モ後日ニ之ヲ移轉  
スル場合モ兩ナカラ之ヲ包含セシメ以テ舊民法ト其主義ノ異ナル所ヲ示シタ  
リ尙ホ舊民法ニ於テ他人ニ屬スル物ノ賣買ヲ無効ナリトセル如キモ所有權ノ  
即時移轉ヲ以テ特定物賣買ノ要素ナリト誤認セルノ結果タリ然レトモ他人ノ  
物ノ賣買ノ有効ナルコトハ後ニ説明スル所ヲ見テ知ルヘシ

### 第二項 賣買ノ目的

賣買ハ双務契約ナルカ故ニ自ラ二個ノ目的ヲ有ス一ハ即チ賣主ノ義務タル財  
產權ヲ移轉スルコトニシテ他ノ一ハ買主ノ義務タル代價ヲ支拂フコト是ナリ  
若シ夫レ正確ニ契約ノ目的ナルモノヲ切論セハ契約ノ目的ト債權ノ目的トハ  
別物ナラサルヘカラス然レトモ普通ノ俗解ニ於テモ亦法律ニ於テモ債權ノ目  
的ハ同時ニ契約ノ目的ト看做セルカ故ニ此ニハ「賣買ハ双務契約ナレハ二個ノ  
目的ヲ有スト」ノ見解ヲ假リテ説明セントス

### 第一 財產權ノ移轉

財產ト云ヒ財產權ト云フ語ハ從來法律界ハ勿論俗間ニ於テモ亦頗ル人口ニ膾  
炙セル用語ナレハ從來學者ノ之カ定解ヲ下セルモノ亦尠ナカラスト雖モ最モ  
普通ノ見解ニ從フトキハ所謂財產權トハ各人カ處分シ得ヘキ權利ナリ若クハ  
各人カ處分スルコトヲ得ヘキ目的ヲ有スル權利ナリトセリ此見解ハ決シテ誤  
謬ナリト云フニ非ルモ未タ盡サ、ル所アルカ如シ今此見解ヲ以テセハ法律ニ  
認ムル物權債權特別法ニ認ムル版權特許權商標權ノ如キ何レモ皆處分シ得ヘ  
キモノナルカ故ニ財產權ナリ之ニ反シ生命權自由權名譽權等或學派ノ所謂對  
世權ナルモノ及ヒ親權夫權ノ如キ身分上ノ權利ハ財產權ト云フ能ハス夫レ賣  
買ハ元來一ノ處分行爲ナルヲ以テ處分シ得ヘキ權利ニ非サレハ賣買ノ目的タ  
ルコト能ハサルハ明カナリ然レトモ處分シ得ヘキ權利ト雖モ必シモ常ニ賣買ノ  
目的トナリ得ルモノニアラス又處分シ得ヘキ權利ナル以上ハ其處分シ得ヘキ  
權利ヲ指シテ直ニ賣買ノ目的タルヲ得ル財產權ナリトスルハ汎博ニ失スルモ  
ノニアラサルカ例ヘハ養料ヲ請求スル權利ノ如キハ固ヨリ處分シ得ヘキモノ  
ニシテ即チ財產權タルヲ失ハス然ルニ或ハ公益上ノ理由ニ因リ或ハ身分上ノ

關係ニ因リテ他人ニ讓渡スコトヲ得サルモノナリ又法律ノ所謂債權ナルモノハ金錢上ノ利益ヲ目的トスルモノ、ミ限ラズ學問上精神上ノ利益ヲ目的トスル權利モ亦包含ス然ルニ學問上精神上ノ利益ヲ目的トスル權利ハ其性質上權利者以外ノ者ニ移付シ得ラルヘキモノニ非ラズ即チ此種ノ權利ヲ指シテ一ノ財產權ト看做スハ又其當ヲ得タルモノニアラス故ニ余輩ノ信スル所ヲ以テスレハ本來處分シ得ラレサルモノハ所謂不融通物ニシテ或ハ其性質上或ハ法律ノ規定上各人ノ處分ヲ許ササル所ノモノナルカ故ニ處分行爲ノ一タル買賣ノ目的物タルコトヲ得サルハ論ヲ埃タス然レトモ財產若クハ財產權ナル語ハ其語自體ニ於テ又其從來慣用セラレ來リシ法語トシテ物質的即チ金錢的ノ利益ヲ有スル權利ナリ何トナレハ物質的ノ利益ヲ與フルモノニ非ラズシテ而シテ買賣ノ目的トナリ相手方ヨリ供與スル金錢ノ對價物トナリ得ヘキノ理由ナケレハナリ故ニ普通ノ見解トシテ財產權ナル語ヲ解シ單ニ處分シ得ヘキ目的ヲ有スル權利ナリトシ一切ノ債權ヲモ舉ケテ財產權中ニ加フルハ事ノ正確ヲ得タルモノニ非ラズト思考ス舊民法ノ如キハ財產ノ定解ヲ與ヘテ「財產トハ各

人ノ資産ヲ組成スル權利ナリ」ト云ヘリ其所謂資産トハ財產及債務ヲ一括シタルモノ、謂ニシテ通俗ニ之ヲ云フ時ハ各人ノ身代ナリ身代ニ組入ル可キモノトシテ財產權ヲ解シタルハ全ク金錢上ノ利益ニ限リタルモノナルコト明カナリ而シテ新民法モ亦別ニ異ナリタル意義ヲ採用シタリト認ム可キモノナキヲ以テ財產權ヲ解シテ債權全部ヲ包含セリト云フハ誤謬ニ非サルナキヲ得シヤ故ニ余輩ノ見解ヲ約言スレハ財產權ハ一面ニ於テ金錢的の利益ヲ與フル權利ニシテ他ノ一面ニ於テハ處分シ得ヘキ目的ヲ有スルモノナラサルヘカラスト云フヘキノミ

買賣ノ目的タル財產權ハ必シモ賣主ニ屬スルコトヲ要セス換言セハ他人ニ屬スル財產權モ買賣ノ目的物タルコトヲ妨ケス唯他人ニ屬スル財產權ヲ目的トスル場合ニ於テハ賣主ニ於テ一度其權利ヲ自己ニ取得セタル後賣主ニ之ヲ移轉セシム即チ債務ノ履行ノ間ニ於テ二重ノ手續ヲ見ルノミ又買賣ノ目的タル財產權ハ必シモ契約ノ當時ニ現在セルモノナルコトヲ必要トセス將來生シ來ルヘキ財產權モ亦買賣ノ目的ト爲スコトヲ得可シ例ヘハ今日ニ於テ來年度ノ

收獲ヲ賣買スルノ約ヲ爲スカ如シ此場合ニ於テハ當事者ノ意思ハ二様ニ解セラルヘシ即チ若シ當事者ノ意思ニシテ來年度ニ一定ノ收獲アラハ之ヲ賣渡スヘシト云フニアラン乎是レ停止條件付賣買契約ナリ故ニ其豫想セル收獲アリテ初テ賣買契約ノ効力ヲ生ス若シ又當事者ノ意思ニ於テ來年度ノ收獲ノ多少ニ拘ハラス約束ノ代金ヲ支拂フヘシト云フニアラン乎是レ一ノ射倖契約ニシテ收獲ノ有無ニ拘ハラス賣買契約ハ成立ス可マ何レニスルモ賣買ノ目的タル財產權ハ必シモ契約ノ當時現存スルヲ必要トセサルナリ

## 第二 代金ハ支拂

買主ヨリ賣主ニ支拂フヘキ代金ハ其文字ノ示スカ如ク必ス金銭ナラサルヘカラス若シ金銭以外ノモノヲ以テ支拂ニ充ツル場合ニハ賣買ニアラスシテ交換契約タリ後ニ説明スル如ク交換ハ金銭以外ハ財產權ト他ノ金銭以外ノ財產權トヲ交易スルモノニシテ其財產權ノ種類ハ限定セラレタルモノニアラス然ルニ賣買ニ於テハ二個ノ目的中其一ハ金銭ノ所有權即チ代金ニ限ラル但シ實際ノ取引ニ於テハ或物ヲ他ノ物ト交易スル傍ラ二物ノ價格ノ差ヲ計算シテ物ヲ

交付スルト同時ニ金銭ヲ添ヘテ引渡ス場合ナキニ非ス此場合ニ於テハ其契約ハ交換ナリヤ將テ賣買ナリヤ此疑問ハ後ノ第五百八十六條第二項ニ於テ判斷セラル曰ク當事者ノ一方カ他ノ權利ト共ニ金銭ノ所有權ヲ移轉スルコトヲ約シタル時ハ其金銭ニ付テハ賣買ノ代金ニ關スル規定ヲ準用ス下即チ法律ハ之ヲ以テ交換契約ト看做シ唯金銭ニ付キ賣買ノ規定ヲ準用スルモノトセルナリ蓋シ此場合ニ於ケル金銭ハ交付スル權利ノ付屬トシテ給付セララルモノニシテ當事者ノ意思ニ於テモ之ヲ交換ト見ルコト相當ナレハナリ

賣買ノ代金額ハ必シモ契約ノ當時ニ一定セラレアルコトヲ要セス後ニ之ヲ査定シ得ヘキ標準アレハ足レリ尤モ賣買ノ當時ニ代金ノ額ヲ一定スルノ普通ノ事實ナリト雖モ或場合ニ於テハ單ニ目安ヲ以テシ其額ヲ指定セスシテ賣買契約ヲ取結フコトアリ或ハ又當時ノ公定相場ニ依ルコトヲ約シ取引ヲ完結スルコトアリ或ハ又賣買ヲ約シテ代金ノ定メ方ハ之ヲ第三者ノ評價ニ委スルコトアリ如何ナル方法ニ依ルモ要スルニ代金ノ契約ノ當時確定スルヲ必要トセス苟モ査定シ得ヘキ以上ハ契約ニ代金アリト見ルコトヲ得可ク既に代金アル以



上ハ契約ノ成立ニ妨ナシ加之普通商取引等ノ間ニ就テ之ヲ見レハ更ニ代金モ定メス又之ヲ定ムルノ方法ヲモ表示セシメテ物ヲ取引スルコトアリ一見スレハ代金ナキ賣買ナルカ如シト雖モ凡ソ契約ハ之ヲ無効ニ解センヨリハ有効ニ解スヘシトノ格言ニ依リテ考フル時ハ是レ亦賣買トシテ有効ナルヲ認ムルニ足ル即チ其代金ヲ定メサルハ素ヨリ相當價格ニ依ルヘキ當事者双方ノ意思ナリト解釋スルヲ至當トス

第三項 賣買ノ豫約并ニ手附

賣買ノ豫約トハ當事者ノ一方ヨリ賣渡又ハ買受ノ義務ヲ負フヘキコトノ申込ニ對シテ他ノ一方カ相手方ノ義務ヲ負フコトヲ承諾スル契約ナリ例ヘハ甲ハ乙ニ對シテ代金若干ナラハ何時ニテモ余ノ家屋ヲ賣渡スヘシトノ申込ニ對シ乙ニ於テ他日入用ノ節買受クヘシト承諾スル時ハ是レ即チ甲カ賣渡ノ豫約ヲ爲シタルモノニシテ甲カ乙ニ對シテ其品ヲ若干金ニテ何時ニテモ買受ク可シト云フニ對シテ乙ヨリ其申込ヲ承諾スルトキハ即チ買主ノ豫約ヲ爲セルナリ斯ノ如ク賣買ノ豫約ハ豫約者ノ申込ニ對シテ相手方ノ承諾ヲ要スルモノナルカ

故ニ單純ナル申込ノ如ク片面的行爲ニアラスシテ一ノ契約ナリ然レトモ此契約ハ單ニ豫約者ノミヲ拘束シ豫約者ノミカ義務ヲ負擔スルモノニシテ相手方ハ何等ノ義務ヲ負フモノニアラス故ニ若シ相手方ニ於テ豫約ノ履行ヲ望マサル場合ニハ豫約ノ性質トシテ契約ハ其實行ヲ見ルコトナクシテ止ム可ク若シ又相手方ニ於テ其履行ヲ欲スルトキハ其相手方ヨリ更ニ買受又ハ賣渡ノ申込ヲ爲シ豫約者カ其申込ヲ承諾シテ茲ニ賣買契約ハ成立ス可シ故ニ賣買ノ豫約ナルモノヲ約言スル時ハ豫約者ニ於テ相手方ヨリ爲ス所ノ賣買ノ申込ヲ拒絕セサルヘキコトヲ約スル一ノ契約ナリト云フコトヲ得ヘシ然レトモ此理論ヲ貫ク時ハ一度豫約ヲ爲シタル上更ニ又一ノ賣買契約ヲ締結セサルヘカラス即チ二重ノ手數ヲ盡ササルヲ得サルニ至ル可シト雖モ斯ノ如キハ徒ニ無用ノ手數ヲ重複スルモノト云ハサルヲ得ス何トナレハ豫約者ハ元來相手方ノ申込ヲ拒絕スルヲ得サル地位ニアリ此地位ニアル者ニ對シテ更ニ其承諾ヲ必要トスルハ徒勞ト云ハサルヲ得サレハナリ故ニ法律ハ實際ノ便宜ヲ圖リ豫約者ニ對シテ相手方ヨリ賣買ノ完結スル意思ヲ表示スルヤ其承諾ヲ埃タスシテ賣買ヲ

成立スルモノトセリ  
 前述スル如ク賣買ノ豫約ハ一ノ契約ナルカ故ニ其契約ニ因リテ義務ヲ負擔スル豫約者ハ相手方ノ承諾ナクシテ自由ニ之ヲ取消スコトヲ得ス之ニ反シ相手方ニ於テハ其契約ニ因リテ何等ノ拘束ヲ受ケス何時ニテモ賣買ヲ成立セシムル意思ヲ表示スルコトヲ得可キカ故ニ豫約者ハ何時ニテモ相手方ノ申込ニ對シテ豫約ヲ實行スルノ準備ニ從事セサルヘカラス是レ自ラ求ムル所ナリト云フト雖モ豫約者ニ取リテハ甚シキ不利益ナリト云ハサルヘカラス是ニ於テカ法律ハ第五百五十六條第二項ノ規定ヲ設ケタリ曰ク  
 前項ノ意思表示ニ付キ期間ヲ定メザリシ時ハ豫約者ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ賣買ヲ完結スルヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ相手方ニ催告スルコトヲ得若シ相手方カ其期間内ニ確答ヲ爲ササル時ハ豫約ハ其効力ヲ失フ  
 ト向ホ豫約ニ關シ一言スヘキハ舊民法ニ依レハ以上述ヘタル賣渡又ハ買受ナル片務的豫約ノ外ニ相互ノ豫約ナルモノヲ認メタリ相互ノ豫約トハ果シテ如何ナルモノナルヤ單ニ空想ヲ以テセハ賣渡ノ豫約ト買受ノ豫約トヲ混合シタ

ルモノト云フヲ得ヘキカ如シト雖モ實際ニ付キテ考フル時ハ殆ント意味ナキコトニ屬ス可シ例ヘハ賣主ニ於テハ何時ニテモ其家屋ヲ賣渡スヘシト豫約シ買主ニ於テハ亦何時ニテモ買受クヘキコトヲ豫約シタリトスルモ是レ何等ノ意味ナキモノニシテ當事者ノ意思ノ解釋ニ於テモ將タ其利益ニ於テモ寧ロ即時賣買ト見ルヲ要當トスヘシ蓋シ相手方カ何等ノ拘束ヲ受ケサルニ因リテ始メテ豫約ノ効力アルヘキモノナレハナリ加之若シ其當事者ノ意思カ即時賣買ヲ爲スニ非ラストセハ或ハ期限又ハ條件ヲ付シテ其賣買ノ履行又ハ成立ヲ後日ニ延期スルコトヲ得ルノ方法餘リアル可キカ故ニ相互的義務豫約ハ理想上之ヲ描クコトヲ得ヘキモ實際上何等ノ實用ヲ與フルモノニアラス新法典カ相互ノ豫約ヲ認メザリシハ此理由アルヲ以テナリ舊法典ニ於テハ相互ノ豫約ハ裁判所ニ於テ即時賣買ト認ムルヲ得トシ佛法典ハ相互豫約ハ即時賣買ノ効アリト規定セリ其實用ナキヤ益ヲ明ナリトス  
 尙ホ一言スヘキハ舊法典ニ於テハ試驗ニ依ル賣買ト試味ニ依ル賣買トヲ認メタリ是レ商法第五百三十二條ニ規定セル點檢賣買又ハ審試賣買ニ同シ所謂試

驗賣買若クハ點檢賣買ト云フハ賣買ノ目的物カ果シテ買主ノ需用ニ適スルヤ否ヤヲ試驗シタル後ニアラサレハ買主ニ於テ買受ケストノ趣旨ニ出テタルモノニシテ例ヘハ機械ヲ買受ケル場合ニ其効用ヲ試驗シ豫期ノ結果ヲ得タルモニテ賣買アリトスルカ如シ又試味賣買者クハ嘗試賣買トハ主トシテ日用ノ飲品ニ就テ行ハル、一ノ試驗賣買ナリトス然レトモ試驗賣買ト云ヒ試味賣買ト云ヒ要スルニ買主ノ任意の條件ヲ付帶スル所ノ契約ニシテ買主ニ於テ果シテ其物カ自己ノ希望ニ適スル時ハ之ヲ買受クヘシト云フニ外ナラサレハ買主ハ敢テ其契約ノ爲ニ拘束セラル、コトナク隨テ是レ亦一種ノ賣渡ノ豫約ナリト云フコトヲ得可シ法典ニ於テハ特ニ此ノ如キ規定ヲ設ケルコトナシト雖モ豫約ノ性質ヨリ推究スル時ハ容易ニ若カク判斷スルコトヲ得ヘシ尤モ其目的物カ相當ノ品質品格ヲ具備シ隨テ買主ノ期望ニ適合スル物ナル以上ハ單ニ買主ノ欲セサル所ナリトシテ容易ニ之ヲ解約スルコトヲ得サル場合ナキニ非ス事實斯ノ如キトキハ是レ一ノ條件附賣買ナリ故ニ其賣買ハ果シテ豫約ト見ルヘキヤ將タ條件附賣買ト見ルヘキヤハ事實上ノ問題ニ屬ス可シ

## 契約法

法學博士 富井政章 講述  
校友 小田幹治郎 編輯

### 緒言

余ハ茲ニ緒言トシテ先ツ一般債權ノ發源ニ付キ述ヘントス債權ノ發源ヲ分類スルニハ確タル一定ノ標準アルニ非ス古來歐洲諸國ノ法制大ニ相異ナル所アリ羅馬古法ニ於テハ債權ノ原因ヲ大別シテ契約ト履行トノ二ト爲セリ是レ有名ナル羅馬ノ法律家ガイユス<sup>ガイユス</sup>法律彙纂ニ掲ケル所ナリ然ルニ時世漸ク進歩シ法律關係ノ類繁ニ赴クニ隨ヒ此二ノ原由ノ外ニ債權ノ發源アルコトヲ認メタリ然レトモ羅馬法ノ特質トシテ如何ナル事項ニ付テモ決シテ根底ヨリ法律

ヲ改正スルコトヲ爲サス唯右二ノ事由ヲ敷衍シテ其足ラサル點ヲ修補シ以テ實際ノ不便ヲ救済シタリ而シテ如何ナル名目ノ下ニ其敷衍ヲ爲シタルカト云フニ今日所謂事務管理及ヒ不當利得ノ如キハ契約ニ非サルモ契約ニ類似セル點アリトノ故ヲ以テ之ヲ準契約ト爲セリ又加害ノ意思ナキ行爲ハ純然タル犯行ニ非サルモ自己ノ過失ヨリシテ他人ニ損害ヲ加ヘタル不法ノ一點ニ於テ犯行ニ類似ストノ故ヲ以テ之ヲ準犯行ト名ケタリ

之ヲ要スルニ羅馬ノ法律ハ末世ニ至リテ債權ノ原因ヲ右ニ列擧セル四個ニ分類セリ是レ「ジュステニアン」(Justinien)帝ノ法律彙纂ニ記載スル所ニシテ疑ナキ事實トス此法制ハ中世ニ傳リテ汎ク佛國ニ行ハレ有名ナル「ボチエ」ノ著書ニモ之ヲ揭ケ遂ニ現行佛民法ニ採用シテ債權發源ノ分類法ト爲セリ即チ佛民法ニハ債務ノ發源ヲ契約ト契約ニ非サル事由トノ二種ニ大別シ更ニ此第二ノ事由ヲ法律ノ規定ト債務者一方ノ行爲トニ區別シ又債務者一方ノ行爲ヲ細別シテ(一)準契約(二)犯行及ヒ準犯行ト爲セリ(佛民法第一三七〇條)

我舊民法ハ「ボアンナード」氏ノ起草ニ係リ大体佛民法ニ倣フト雖モ此點即チ債

務ノ發源ノ分類ニ就テハ大ニ其面目ヲ改メタリ即チ財産編第二百九十五條ニ於テ義務ノ原因ハ合意不當利得不正ノ損害法律ノ規定ノ四ト爲シ其羅馬法及ヒ佛民法ニ所謂準契約ヲ改メテ不當利得ト爲シタルハ第一着ノ改良ナリト謂ハサルヲ得何トナレハ縱令準ナル語ヲ冠スルニセヨ全ク契約ニ非サルモノヲ契約ト命名シタルハ固ヨリ不當ナレハナリ又所謂犯行及ヒ準犯行ヲ合稱シテ不正ノ損害ト爲シタルモノノ改良ナリト謂ハサルヲ得何トナレハ加害ノ意思アルト否トハ第二ノ問題ニ屬シ他人ノ權利ヲ侵犯シテ之ニ損害ヲ加ヘタルコト即チ義務發生ノ理由ニ外ナラサレハナリ但損害ハ不正ナル行爲ノ結果ニ過キス其結果ヲ以テ直チニ債務ノ原因ト稱スルハ穩當ナラサルナリ寧ロ其結果ヲ生シタル行爲ヲ以テ債務ノ原因ト爲スヲ至當トス斯クスルトキハ契約其他ノ原因ト相對シテ權衡ヲ得ルコトト爲ルヘシ

本年七月ヨリ實施セラレタル新民法ハ先ツ法文ノ體裁ヲ得ル爲メ豫メ債務ノ原因ヲ明示スルカ如キコトヲ爲サス第二章以下ニ於テ契約事務管理不當利得不法行爲ナル諸事項ヲ掲クルニ止メタリ此四ハ何レモ債權ノ發源タルコト論

ナシト雖モ債權ハ悉ク此四個ノ原因ヨリ生ズルモノト解ス可カラズ唯一般ノ性質ヲ有シ民法中他ノ部分ニ規定スルコトヲ得ヘカラサルモノヲ舉ケタルニ過キサルナリ此他ニ債權發生ノ場合少シトセス即チ例ヘハ共有若クハ相隣ノ關係後見人ト爲リタルコト又或親族關係ヨリ扶養ノ義務ヲ生ズルカ如キ是等ノ場合ハ各其事項ニ關スル他編ノ條下ニ規定セリ舊民法ハ所謂法律ノ規定ナル廣キ字義ノ下ニ此等ノ場合ヲ總括セシメタリ然レトモ法律ノ規定ニ因リ債務ノ發生スルコトハ其規定ニ因リテ直チニ明カナルヲ以テ民法特ニ之ヲ示スノ必要ナキモノトセリ

舊民法ニ所謂合意ヲ改メテ契約ト爲シタルコトニ付テハ後ニ説明ス可シ又事務管理ヲ不當利得ヨリ分離シテ別ニ獨立ノ一原因ト爲シタルハ此二者大ニ其性質及ヒ効果ヲ異ニスル所アレハナリ蓋シ事務管理ナルモノハ決シテ其利得シタルモノヲ償還スルノ債務ヲ生ズルニ止マラス先ツ其若手シタル管理ヲ繼續スルノ義務アリ是レ不當利得ノ法理ヲ以テ説明スルコトヲ得ス尙通常ノ不當利得ト異ナル所ハ現ニ享ケツツアル利益ヲ償還スルニアラサルナリ

民法第二編第二章  
第二節 債務ノ履行  
第三節 債權ノ消滅

●附録ニ就テ

本號初版ノ分ニ掲載セシ附録ハ當  
時其必要アリシト雖モ再版ノ今日  
太夕緊要ナラサルヲ以テ總テ之ヲ  
省ケリ

明治三十二年二月四日印刷  
明治三十二年二月五日發行  
明治三十二年九月二十日再版

編輯者 小田幹治郎  
東京市四谷區四谷神町三丁目六番地

印刷者 金子鐵五郎  
東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地

印刷所 金子活版所

發行所 司法省 和佛法律學校

所在 (東京市麴町區富士見  
町六丁目十六番地)  
電話 (番町百七十四番)

明治廿二年十一月九日內務省許可